

よってかれ～。笑顔の集う公民館

黒部市立浦山公民館(富山県)



公民館の沿革・年表

- ・昭和43年 浦山公民館開設
- ・平成26年 ほたるの鑑賞会始まる(高志の国体験事業)
- ・平成27年 浦山公民館移転
- ・平成29年 親子防災教室「防災デイキャンプ」を開く
- ・令和5年 とやま環境優秀活動賞を表彰
- ・令和5年 教育功労者等を表彰

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 「浦山公民館まつり」の様相
毎年秋に開催している「浦山公民館まつり」の様相。公民館活動の学習・文化・サークル活動の**展示・発表・交流**の機会とし、作品展示や活動発表など、大勢の方が交流を図った。
- 「シャキッとうらやま☆」の様相
令和7年6月に開催した「シャキッとうらやま☆」の様相。高齢者に**元気で楽しく自分らしい生活をおくってほしい。**という思いで始まり、参加率は、登録者の約8割と高く、活動の輪を広げている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	2039人	4. 利用可能時間	9:00～22:00
		2. 建物設置年月日	平成27年3月10日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	356日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,255人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5,070人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 470人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 881人 ()				合計 8,676人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)				合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input checked="" type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (学童(放課後児童クラブ))				

黒部市浦山公民館

OPEN 8:30～22:00 H P <https://www.hing.com/search?o=浦山公民館&form=ANNTH1&cafe=7a5354259e-cd3fcd0a10076a847e28cc14531>
 TEL 0765-65-2090 SNS Instagram(@URAYAMAKOUMINKAN)



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 近年能登半島地震など、大規模な災害が全国各地で多発しており、公民館として住民の皆さんにできることは何かと考えた結果、日頃の備えなどを普及し、地域・家庭で考える機会を持っていただきたいと考え、防災教室に取組みはじめた。
- 高齢化率が高く、人口が減っている**ことから地域の交流の場を設けると共に、自然を大切にす地元の活動団体「里山ほたるの会」をバックアップしつつ、**自然の不思議と大切さ**を子どもたちに教え伝承している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【公民館教室 ほたるの鑑賞会（世代間交流活動）】

公民館教室の人気イベント「ほたるの（お話しと）鑑賞会」では、里山ほたるの会の皆さんと連携し、平成26年から活動している。最近では**2次元コードの申込受付**、**SNSでほたるの飛来状況の発信**など、デジタルを活用する取組みを始めている。

その結果、参加者は年々増加し、何度も新聞で取り上げられており、今年の6月にも北日本新聞社で活動の記事が掲載され、公民館への問い合わせが増えた。



【防災教室（地域防災・減災）】

上記の課題より、職員が防災士を取得し、防災教室を開催している。

親子防災教室「防災デイキャンプ」では防災として一番大切な日頃の備えのお話し、**家族での話し合い**、段ボールでのトイレ作り、新聞スリッパ作り、テント作り、簡易DIG（簡易型危険箇所確認図上訓練）、防災食づくりを体験してもらい、防災対策を普及している。

また、放課後児童クラブへ出向き、地域の子どもたちを対象とした日頃の備えの話、非常持ち出し袋に何を入れたらいいのか考える防災クイズや防災すごろくなどを使って、楽しく学びつつ、防災知識を子どもたちに知ってもらい、**家庭へもつなげてほしい**と願っている。



3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【公民館教室 ほたるの（お話しと）鑑賞会（世代間交流活動）】

住民、特に子どもたちに**自然の大切さを伝え学ぶ場**にし、自然豊かな環境を保全する活動にもつなげている。

【防災教室（地域防災・減災）】

住民ボランティアによる、防災に役立つ手作りピザ窯とかまどを作成し、公民館に設置した。

ピザ窯とかまどを使って、親子でピザ作り教室やパン作り教室、美味しいごはん炊きなどの三世交代交流イベントを開催している。

毎年地域で行われている防災訓練でも、ピザ窯とかまどを利用しており、災害時にご飯を作ることができる**避難所として心強い公民館**である。



4. 取組による成果や効果

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・**公民館来観者数が増加**
- ・防災教室をきっかけに、**黒部市で初めて地区防災計画を作成することにつながった。**

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識者や自治関係者12名で構成する「公民館運営審議会」を年2回開催する。
- その中で、昨年度実績報告と今後の活動計画を伝達し、意見を伺う。
- 小学校活動に関する内容については、「学校運営協議会」で行っている。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

地域住民にとって魅力のある場所になることを目指し、今後は小学校と公民館が連携し、小学校の社会科の学習内容の「外国と日本の生活を比べてみよう」の単元で、文化、学校、年中行事を中心に生活の違いについて国際結婚した浦山出身の方とオンラインで交流し、**コミュニティースクールにつなげたい**と考える。



福田だよりとSNSを軸に地域づくり

高岡市福田地域交流センター(富山県)



福田だよりNo. 80~85

福田だよりに毎回掲載

公民館のInstagram・ホームページに写真を！ 公式ラインに登録を！
イベントの写真・動画・コトを「福田公民館公式ライン」で送って下さい！
 福田公民館・福田地区の「デジタル情報発信のシステム」が整備されました。
 ★ 大事な情報が素早く届き、いつでも見られます。 ★ 講座の申し込み等がスマホで簡単に出来ます。★ 写真・動画を公式ラインで送れば、直ぐにインスタにアップされます。
 ★ 下部のQRコードをスキャンしてつなげて下さい。
 ★ 結ネット(自治振のネットワーク)…関心のある方は公民館にお問合せください。

公式Instagram 公式ライン ホームページ

公民館の沿革・年表

- ・昭和35年 高岡市福田連絡所内に市立福田公民館開設、福田婦人学級開講
- ・昭和45年 福田公民館講座・福寿高齢者学級開講
- ・昭和54年 福田公民館完工、福田公民館運営委員会発足
- ・平成5年 福田地域生涯学習推進協議会発足
- ・平成11年 福田地域内公民館連携推進協議会発足
- ・平成23年 福田だよりNo. 1 刊行
- ・令和5年 多機能自治への取り組み開始
- ・令和7年 福田地域づくり協議会設立(多機能自治)

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

●福田だよりと毎回掲載している情報化推進記事
 地域づくり、地域活性化のためには、地域住民による情報の共有を進めることが必要と考え、その手段として福田だよりの発刊を始めた。デジタル情報受発信システムとして、公式ラインに投稿があった地域活動の情報を速やかにInstagramに掲載している。さらに、これを利用して福田だより紙面を作成するようになった。記事のほとんどは、各地域からのデジタル投稿であり、多くの住民から投稿された写真・記事により各紙面ができていく。全世帯に配布され、全住民、老若男女の情報共有手段としている。さらにホームページで公表している。

公民館情報	1. 公民館対象人口	2,958人	4. 利用可能時間	9:00~21:30
	2. 建物設置年月日	昭和54年2月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
	3. 開館日数	242日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	254台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (福田地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,503人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7,656人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ()			合計 9,159人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)		合計 5人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()			
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高岡市福田地区交流センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (特別養護老人ホーム鳳鳴苑)			

高岡市立福田地域交流センター

OPEN 9:00~16:00 H P
 TEL 0766-31-3582 SNS



公式ライン



ホームページ



公式Instagram

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

● 少子高齢化や若い人達の意識の多様化等により、地域活動への参加意識が薄くなり、地域の連帯感も減退してきた。 ● 地域への関心や地域愛を高めることが必要であると考え、**地域の様子や出来事、地域活動等の情報を互いに共有することが大切**と考えた。そのため、**地域づくり、地域活性化のための手段として、福田だよりの発刊**を始めた。年6回発行し、住民からは「自分たちの地域のことがよく分かる。」と概ね好評であった。 ● しかし、情報の鮮度、情報量や内容も限られるということが問題とされた。また、福田だより担当の後継者が見つからないという問題もあった。更に、コロナ禍により、取り組みが縮小し、記事が不足し存続が危うくなった。当時は公民館や地域の活動自体の存続も危うかった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【デジタル情報発信システムの利活用】

地域住民による情報共有を推進するため、デジタル情報化が進展する中で、他館から学びながら、デジタル情報の活用を試行した。地域住民の情報化を推進するため、福田公民館・福田地域のデジタル情報発信のシステムを整備した。デジタル情報の即時性、常時性、簡便性を最大限に活かし、デジタル情報の利便の享受を進めている。公式ライン、インスタグラム、ホームページ、結ネット及び福田だよりに掲載して、生涯学習活動はじめを地域住民の各種活動を周知している。

【住民からのデジタル情報による福田だよりの作成】

公式ラインに地域住民から投稿された動画・写真・記事で、インスタグラムを作成しているが、その写真やコメントをそのまま利用して、**簡便に福田だよりのが作成できるようになった。福田だよりの各紙面が、多くの住民による投稿記事でできあがっている。**インスタグラムを見る住民は未だ限られる。また、福田だよりは家族の子供から高齢者まで皆のものである。全世帯に配布して、**全住民、老若男女の情報共有手段**としている。昨年5月からフルカラーの紙面となっている。さらにホームページで公表している。



インスタグラム



いきいきサロン、インスタグラム

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

● インスタグラムを通して他館等から刺激を受け、特色のあるイベント等から学ぶことがあり、生涯学習活動、地域活動の励みになっている。 ● 行事等の結果を地域内外に発信し、知ってもらえることは嬉しい。次の取り組みへのモチベーションが高まっている。 ● 行事開催や諸活動案内の発信が早くできる。事業結果の記録とまり、参加者も確認できる。 ● 地域住民の声を聞きながら事業を展開をしていくために、公式ラインには、地域における活動の情報について、住民の方々から写真・動画・記事を投稿いただいております、地域情報の受け入れ窓口としている。この公式ラインに投稿があった地域活動の情報を速やかにインスタグラムに掲載している。



地域文化の象徴、獅子舞

4. 取組による成果や効果

● 各種行事の担当者等が、公式ラインに情報を提供する作業を通して、自主的に考え主体的に行動できる地域の人材として育てている。 ● 各種行事の参加者をはじめ地域住民が、インスタグラムや福田だよりを見ることにより、地域の情報が身近なものとなり、地域への関心や愛着が徐々に広がっている。 ● 体験活動を通して、特に子供と高齢者が活発に交流するような地域の流れが生まれており、今後も地域の資源、人材を活用した事業を展開できる効果が期待できる。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

● 多機能自治の取り組みの中で、地域住民の地域への思いや情報発信に関する意見等をアンケートで集約した。その中から今後の改善、工夫のヒントを得ると共に、各世代等の意見交換会等を随時行っていく。 ● 困難を理由にして学びを止めず、できることをできる範囲で取り組み、皆で事業を分担して補い合っていく。



公民館祭り

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

● 地域づくり、地域活性化の手段として、住民のデジタルリテラシーを高め、SNSと福田だよりを一層充実させ、さらに活用する。SNSと福田だよりは、諸団体や各町内、地域住民が情報を共有し、地域をつなぐものとしてなくてはならないものである。今後も福田だよりとSNSを軸に地域と地域住民を元気づけていきたい。地域住民の結びつきを広げ、強めていく。 ● 生涯学習活動により人づくりを進め、地域づくりをしていく。



スマートフォン講座で情報化推進

自然と歴史に寄り添うまち～つながりと豊かさを求めて～

加賀市立橋立公民館(石川県)

公民館の沿革・年表

昭和21年11月 橋立村公民館として設立される。
昭和22年9月 県優良公民館として表彰される。
昭和24年4月 社会教育法に基づいた橋立村公民館となり、全村民を対象にした活動を開始。4部会を設置、各町区長を分館長と審議委員会を発足する。
昭和31年3月 レクリエーション活動に対し、石川県教育委員会より表彰される。
昭和37年 昭和33年の加賀市の誕生を期に小学校単位ごとに公民館を設置し、加賀市立橋立地区会館となる。
昭和59年 「加賀市まちづくり運動」の一環として、各地区組織された「まちづくり」活動と公民館活動の一体化が図られた。
昭和60年4月 橋立村役場跡に橋立地区会館建設される。
平成9年 橋立町史発刊する。
令和4年2月 地区会館大規模改修 完成する。
令和5年10月 県優良公民館として表彰される。

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

〇はしたてフェスタの開催

「地域住民が主人公」を合言葉に地域住民作品展・フォトコンテスト・地域の伝統的な芸能の発表・サークル団体の発表・模擬店・地域の食の販売を実施。地区会館を会場にのべ600人が来場した。

〇「わが町再発見」フォトコンテスト

地区住民に「わが町再発見」をテーマに写真を募集。一人1作品、広報での宣伝等によって、99点の応募があった。作品展への来場者の投票によって賞を決めている。



はしたてフェスタの開催



「わが町再発見」フォトコンテスト

Table with 14 rows and multiple columns containing facility information, budget, and activities. Includes sections for '公民館情報', '1. 公民館対象人口', '7. 運営主体', '8. 来館者数', '9. 職員数', '10. 予算', '11. 公民館運営審議会', '12. 公民館が実施している...', '13. 施設の特徴、魅力', and '14. 各種事業等で連携・協働している団体等'.

加賀市立橋立公民館

OPEN 8:30~17:00 HP
TEL 0761-75-2944 SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

コロナ禍のため、公民館活動が制限され、地域の交流の場や一体感が喪失し、住民同士の関係が希薄となってきた。地域が一体となる行事が減少する中で、多くの住民が参加する文化祭（橋立フェスタ）を中心活動として位置づけ、地域の魅力を住民自らが再発見し、地域に誇りを持ち、住民自らが活動に積極的に参加する意識を高めること、子どもから高齢者まで参加して楽しい活動とすること、地域住民のつながりを創る活動になることを目指し、取組を進めた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

①はしたてフェスタの復活

4年ぶりに「地域住民が主人公」を合言葉に地域住民作品展・フォトコンテスト・地域の伝統的な芸能の発表・サークル団体の発表・模擬店・地域の食の販売を実施。地区会館を会場にのべ600人が来場した。女性の視点から、フェスタの企画を「しゃべり場」を開いてアイデアを募った。当日は、地域の特産物のお店や各種団体のワークショップ、模擬店など12のブースができた。

②橋立地区フォトコンテスト&カレンダー製作、全戸配布

昨年度に引き続き、地区住民に「橋立地区の魅力発見」をテーマに写真を募集。一人1作品、広報での宣伝等によって、99点の応募があった。作品展への来場者の投票によって賞を決めている。フォトコンテストの入賞者の作品を中心に昨年度もA2の大きさでカレンダーを製作した。地域の企業、団体の協賛金を募集し、その製作費に充てた。年末に地域住民全戸に配布した。

③敬老会の復活

コロナが明け、4年振りの敬老の集いを復活させた。橋立地区の敬老会は、75才以上を対象に民生児童委員の協力の元、案内のチラシを戸別に配布し、参加者を募った。希望者で移動の手段がない人には、タクシーを手配した。75才になった人には、記念品とメッセージを配布。お弁当とお茶は、持ち帰りにした。参加者170名、各町区長さんはじめお世話係40名で総数210名だった。10月1日の日曜の午前中の開催で、今年度は、地域に根ざした発表を見てもらうことをねらいに小学2年生による橋立クイズ・地区ギターサークルによる北前の里の演奏他・加賀市民謡会による唄と踊りを発表してもらった。久しぶりに再会した人たちの笑顔が広がり、感謝の声を聞くことができた。

④男女共同参画モデル地区推進事業

親子コンサート…子育て・家族・地域で輝くをテーマに「雪のちゃんぶる」フォークコンサートを開催。約50名参加。市の男女共同参画社会推進事業と共催し、啓発も行った。

落語会…老人連合会の「老人学級」と連携し、男女共同参画の視点から高齢者の介護問題、終活を、はやおき亭貞九郎さんの落語を通して学んだ。笑いの中にもいつまでも生き生きと暮らすこと、協力し、繋がって生きる重要性を学んだ。



フォトコンテスト最優秀賞
「僕たちのパーティー」



地域住民のアイデアを活かした
模擬店

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

まちづくりに様々な住民の意見を取り入れ、新しい地域づくりを目指し、住民が気軽に話ができる「しゃべり場」を企画している。その中で、地域分析や企画作成を学ぶ「地域づくり学び講座」をおこなった。地域分析シート、企画シートを使い、地域の宝をさがし、その宝を活かした企画を考え、出し合った。参加者から、「自分の住む地域にいいものがたくさんあり、それを活用して楽しいイベントが開催できるかも！という期待が持てた」や「地域を大切にすると、地域の人々を幸せにする。そのために具体的に何ができるのか、考えるきっかけとなった」との感想があった。この取組を通して、はしたてフェスタの新たな運営の仕方や企画につながり、今までつながりがなかった住民同士の連携を生んだ。



「しゃべり場」での地域づくり学

4. 取組による成果や効果

毎年行ってきた活動や恒例行事の目的を見直し、住民が参加して「楽しい、一体感が持てる、つながりが感じられる」ように工夫している。公民館活動が地域の魅力再発見、地域行事の主體的参加と満足感、また参加したいと思う意欲化、地域に種を蒔く人の育成、そして、自分たちのまちや文化に誇りを持ち、一人ひとりが生き生きと活動できる地域づくりとなっている。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

①広報による振り返りと情報共有

活動内容や参加者の感想や意見、活動の募集などを広報「はしたて」に載せている。また地区内一斉放送を利用し、参加呼びかけ・啓発・行事の中止や延期を臨機応変に放送している。

②各専門部による振り返り…まちづくりの取組は、月1回の区長会で審議報告し、年度末には、1年の取組を文書化し、活動の総括と共に次年度に活かしている。



発表を見守る参加者

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

さらに住民が楽しく、つながりを感じられる活動を重点化、他者による刺激と更なる連携を強化し、様々な立場の住民が活躍する活動を今後も実施したい。また、橋立海青学園のコミュニティスクール事業及び義務教育学校化により、学校と地域との連携をより深めて、学校・地域が両者にとってプラスの関係になれるようにしていきたい。



加賀市立橋立公民館

世代間交流による仲間づくり

穴水町立穴水公民館(石川県)

公民館の沿革・年表

- 昭和54年 穴水公民館設置
 平成19年 能登半島地震で被災したため、町林業センター内に事務所を移す
 平成23年 町さわやか交流館プラウトが完成し、同館内に事務所を移す
 令和4年 石川県優良公民館表彰を受賞

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

正月には門松、3月にはひな人形、7月には七夕、11月にはハロウィーン、12月にはクリスマスなど来館者に少しでも楽しんで頂けるよう季節ごとに様々な飾りつけを行っている。門松では山に生えている竹を切り、ナンテンや松、ウラジロ、葉牡丹等で飾りつけを行い、また七夕では町内に自生している笹をとり短冊や提灯、天の川等を作成し飾りつけしている。公民館はサークル活動とおして住民の交流を行うところである。能登半島地震が起きる以前は大相撲の遠藤関展示室が設置されており、駅前にあることから県外からも多くの観光客が訪れる施設であった。



穴水公民館全景



クリスマスイルミネーション

公民館情報		1. 公民館対象人口	4327人	4. 利用可能時間	9:00~21:00
		2. 建物設置年月日	平成23年10月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	255日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 216人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,195人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 791人 その他 ()				合計 4,202人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 (職員のうち社会教育士の数 職員のうち社会教育主事有資格者の数)				ボランティア協力者 合計 6人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 委託金 自治組織等予算 寄附等 その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり なし その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 デジタル・デバイドの解消 家庭教育支援 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 障害者の学び支援 日本語教育の推進 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール 社会人の学び直し その他 (SDGs)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 学校 生涯学習センター その他 () 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 小中学校 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 博物館 青少年教育施設 その他				

穴水町穴水公民館

OPEN 9:00~21:00 H P <https://www.town.anamizu.lg.jp/>
 TEL 0768-52-2951 SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

穴水町は能登半島の北部に位置しており、春にはイサザ、夏にはサザエ、秋にはワイン、冬にはカキ貝といった四季折々の特産品がある「まいもの里」であり、海と山に囲まれた豊かな自然に恵まれた町である。少子高齢化及び過疎化が著しく進んでいる。そのようななか、昨年1月に能登半島地震が発生しこれまでに経験したことがないような未曾有の災害に見舞われた。そのため、発災後は避難所となり当初は約300名が避難することとなった。令和6年の6月まで避難所となっており、また館内に災害ボランティアセンターが設置されたため、被災者支援の拠点となった。避難所が閉鎖された後は少しずつ利用団体が戻ってきている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【ブルート夏まつり（世代間交流活動）】

公民館で活動している団体やその他町内で活動している団体に協力して頂き唄や踊りの発表、また来場者にも炭坑節等の踊りに参加して頂いている。子供から高齢者まで多くの方に協力を頂き実施している。その他町内の業者に焼きそばやお好み焼き、飲み物等を販売する屋台を出店して頂いている。令和5年度は町内で定期的に活動している穴水ウィンドアンサンブル、健康づくりサロン、よさこい十八番連、穴水カホン隊、ふるさとコース、越中おわら節竹中会の6団体に出演して頂いた。以前は町内各地域で盆踊りが行われていたが、帰省する人が減少していくなか、少しでも住民が集い様々な年代の人々が交流できるようにと毎年実施している。



ブルート夏まつり

【穴水公民館作品展（コミュニティスクール）】

毎年7月第3土曜日に実施される「長谷部まつり」に合わせ協賛し開催している。令和5年度は手芸教室、墨心会、洋裁サークル、写経の会、押し花友の会、真名井短歌会の6団体が出品し、茶道会（滝川社中）によるお茶席も設けられた。穴水公民館は町の中心部に位置しており、多くの町民が訪れる場所であり、様々な作品を展示している。



穴水公民館作品展

【防火訓練（地域防災・減災）】

地震等により館内で火災が発生したと想定し緊急連絡や避難誘導、初期消火の方法について学習する。毎年2回実施しており、その内1回は消防署員が立会のもと実施している。避難経路の確認や水の消火器を使い、火災を想定して行っている。

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- ・ブルート夏まつりは公民館だけでは実施出来ないイベントであるため、地域の住民はもとより公民館の利用者や出演団体、出店者の方々に協力委員になって頂き、まつりの運営を手伝ってもらっている。まつりの2ヶ月近く前に協力委員に集まって頂き実行委員会を開いている。公民館が主催なので各団体への案内や会場準備、片付け等を中心となって実施した。
- ・穴水公民館作品展はおもに公民館の利用団体に出品を依頼している。展示に必要なパネルや脚、長机、白布等の備品の準備及び片付けを中心となって行なっている。
- ・数人で車椅子の利用者を階段で避難させる訓練や、館内に煙が充満しているために外階段から避難する訓練など様々な場面に対応できるよう防火訓練を実施している。訓練の日時はできるだけ多くの利用者に体験してもらうため、曜日を限定せず実施している。



お茶席の会場

4. 取組による成果や効果

- ・ブルート夏まつりは、公民館の利用団体が日頃の練習の成果を発表する場としてさわやか交流館が完成した翌年から実施されている。穴水公民館は町の中心部にあり、町内で人口が最も多い地域だが地域住民とおしの結びつきが稀薄であるため交流の機会がなかなか持てない状況だった。夏まつりを行うことで、出演者は生きがいを感じることができる。
- ・長谷部まつりの時期に合わせ、毎年「穴水公民館作品展」を実施しているが、手芸教室の作品はエコバックや吊るし飾り、人形等見る人に癒しを与えるものが多く、書道や押し花、洋裁、写経も力作ぞろいで印象深い作品が多い。作品展を行うことで来館者の増加及び出品者の成果発表、町民の芸術鑑賞の機会を増やすことにつながる。
- ・防火訓練を行うことで、来館者に火災が発生した際の避難経路や消火器の使い方等を再認識してもらうことに繋がる。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

年に1~2度、町内の社会教育関係者及び家庭教育関係者等からなる公民館運営審議会を開催しており、公民館の事業内容や運営方法参加者の感想などについて意見交換を行い、今後の事業に生かせるよう取り組んでいる。



ローエルに関する展示

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

令和6年能登半島地震により多くの住民が被災し避難所や人口減少が加速していくなか、地域住民の交流の場である公民館が果たすべき役割は多様化していくものと考えられる。日頃は施設利用団体の活動の場であり、地震や大雨等のときは地域住民の避難所として防災の拠点となる。今後は、公民館の目的である生涯学習の場として多くの住民に気軽に来館してもらえるようイベントなどを企画し取り組んでいきたい。



町民リクエスト教室

さくらが教えてくれた、ふるさとのやさしさ

白山市立蝶屋コミュニティセンター(石川県)



公民館の沿革・年表

- 昭和25年 蝶屋村立公民館開設
- 平成17年 合併と同時に白山市立蝶屋公民館設置
- 平成21年 地域学習活動「蝶屋っ子さくら探検隊」スタート(蝶屋小と連携)
- 平成22年 石川県民運動「桜名所づくり」で10万本目の記念植樹実施
- 平成28年 白山市立蝶屋公民館新設
- 令和3年 蝶屋まちづくり協議会設立
- 令和6年 「白山市立蝶屋コミュニティセンター」※白山市立公民館からコミュニティセンターへ移行

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

桜の観察を通して、自然とふるさとの魅力を再発見!
 「蝶屋っ子さくら探検隊」は、子どもたちが桜の開花を観察し、自然やふるさとへの愛着を育む活動である。平成21年から続き、令和6年度は過去最多の54名が参加。地域ボランティアとコミュニティセンターが協力し、地域みんなで支えている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	112356人	4. 利用可能時間	8:30~22:00	
		2. 建物設置年月日	平成28年12月17日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)	
		3. 開館日数	299日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	市町村教育委員会	指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (白山市コミュニティセンター連合会)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 3,104人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,923人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,074人 その他 ()			合計	9,101人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 兼任 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 (職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数)			ボランティア協力者	合計 3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 委託金 自治組織等予算 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域コミュニティ推進交付金)					
11. 公民館運営審議会	あり なし その他 ()					
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 その他 (SDGs)	デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 単独施設 自由記述 ()	図書館 学校 生涯学習センター その他 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

白山市蝶屋コミュニティセンター

OPEN 8:30~22:00 H P <https://tyoya.net/matizukuri/>
 TEL 076-278-8137 SNS



©CHOYA.CC

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 取組を進めた要因・背景 本取組は、旧公民館で作成された「蝶屋地区内 桜マップ」を活用し、地域の自然資源である桜の木を題材とした学習・体験活動としてスタートした。この桜マップを基盤に、地域に住む子どもたちが自分たちの身近な自然を観察することで、自然の不思議さや美しさを実感し、ふる里に対する愛着を育ててほしいという思いが出发点となっている。平成21年には、当時の蝶屋小学校の理解と協力を得て、全児童を対象に募集し「蝶屋っ子 さくら探検隊」が結成され、本格的に活動が始まった。翌平成22年には、石川県が進める県民運動「桜名所づくり」における10万本目の記念植樹に隊員児童が参加し、外部との連携の中で活動へのモチベーションがさらに高まった。また、地域のボランティア団体である「蝶屋桜守の会」が活動を支え、運営や指導を行うなど、地域の大人と子どもが協力しながら進める体制が整えられてきた。
- 地域課題 一方で、活動を支える「蝶屋桜守の会」は年々高齢化が進んでおり、今後このような体験活動を継続していくためには、新たな担い手の確保が大きな課題となっている。また、観察や保全などの活動を継続的・安定的に実施するには、持続可能な運営体制の整備が必要である。さらに、これまで大きな役割を果たしてきた地域の高齢者と子どもたちの交流機会が減少することで、地域に根差した知恵や文化を伝える場が失われていく懸念もある。
- 住民ニーズ・地域の期待 地域住民からは、子どもたちが自らのふる里について理解を深め、自然や歴史を学ぶことで、地域への誇りや愛着を育ててほしいという強い願いがある。特に桜という地域資源を通じた体験活動が、地域のつながりを感じる大切な機会になっていることから、今後もこうした学びと交流の場を継続してほしいという声が多く寄せられている。また、今後は学校・地域団体・行政が連携し、新たな協力体制を築くことによって、次世代の育成と自然環境の保全を両立する取組が期待されている。

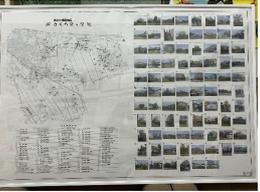
2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

蝶屋地区では、地域資源である桜を題材に、子どもたちの自然への関心や郷土愛を育むことを目的とした「さくら探検隊」の活動を行っている。この活動は、毎年全校児童を対象に隊員を募集し、3月下旬には結成式を実施している。結成後は、旧公民館で作成された「蝶屋地区内 桜マップ」をもとに、児童一人ひとりに担当の桜を割り当て、「開花日」「満開日」「落花日」などを観察してもらう活動を行っている。4月には、地域のボランティア団体「蝶屋桜守の会」の協力のもと、石川県林業試験場樹木公園で桜の観察会を開催。観察後はセンターへ戻り、桜を題材に絵や作文などの作品づくりを行っている。5月中旬頃には、各児童の観察記録を回収し、担当ごとの桜の記録をパネル化して記録に残している。さらに、観察会での感想や体験をまとめた冊子を作成し、文化祭では作品・観察記録・冊子を展示発表し、活動の成果を広く地域に発信している。冊子は後日、隊員児童全員に配布され、活動の振り返りと記念として手元に残るようにしている。このような活動は、地域の自然や人と関わる貴重な体験の場となっており、地域課題である世代間交流の希薄化や郷土への関心の低下にも有効に働いている。また、「蝶屋桜守の会」の高齢化により運営面での課題もある中で、学校と地域が連携して活動を支え、継続の工夫が図られている。隊員の参加数は年度によってばらつきはあるものの、全校児童数が年々減少する中においても一定数を維持しており、令和6年度には過去最多の54名が参加した。これは、本活動が児童にとって魅力的であり、活動を通して自然を愛し、ふる里への愛着を育むという目的にしっかりとつながっていることを示している。



3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

本取組において、コミュニティセンターは地域と学校、ボランティア団体をつなぐ「協働のコーディネーター」として大きな役割を果たしてきた。活動の出发点となった「蝶屋地区内 桜マップ」は、旧公民館が地域住民と連携して作成したものであり、この地域資源の可視化が、子どもたちの自然体験活動の基盤となった。また、コミュニティセンターは活動の企画・運営においても中心的な調整役を担い、学校や「蝶屋桜守の会」と連携して、年間の活動計画の立案や資料準備、会場の確保、広報活動などを支援している。特に、高齢化が進むボランティア団体に代わって、地域活動の担い手がスムーズに連携・参加できるよう工夫を重ねている。運営面では、児童の記録や作品をパネルや冊子にまとめ、文化祭での展示発表の場を設けることで、地域住民に活動成果を可視化し、活動への理解と共感を得る仕組みをつくっている。さらに、冊子を隊員児童に配布することで、活動の振り返りと記録の蓄積を図り、次年度以降の継続と発展につなげている。こうしたコミュニティセンターの役割は、地域と学校を結びついで、また活動の継続性を支える仕組みづくりであり、地域住民・学校・子どもたちの三者が共に学び合う「地域共育」の場づくりに貢献している。



4. 取組による成果や効果

「さくら探検隊」の活動を通じて、児童たちは桜の観察や記録、創作活動を行う中で、自然の変化を自らの目で捉える力や継続的に物事に取り組む姿勢を身につけている。また、身近な地域資源である桜の木に意識的に関わることで、郷土への関心や愛着が自然と育まれている。児童が自分の担当の桜に対して「自分の木」としての思いを持ち始めるようになり、地域の自然との結びつきが深まっている。地域との交流の面では、地元ボランティア団体「蝶屋桜守の会」やコミュニティセンターとの協働により、世代間交流の機会が生まれ、地域の大人から子どもたちへ自然や環境への思いが語り継がれている。これにより、地域ぐるみで子どもを育てる機運が高まり、地域全体のつながりの強化にもつながっている。また、活動成果を文化祭で発表し、記録を冊子やパネルとして可視化することで、子どもたちの学びを地域全体で共有できる仕組みができた。これにより、保護者や地域住民の理解と協力が深まり、活動の継続と広がりを支える土台が形成されている。さらに、年々減少する児童数に対して、隊員希望数は大きく落ち込むことなく一定数を維持しており、令和6年度には過去最多の参加人数を記録した。これは、本取組が子どもたちにとって魅力的な学びの場として定着していることの表れであり、目的である「自然とのふれあいを通じた心の育成」「ふる里への愛着形成」という面において、確かな効果が表れている。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

「さくら探検隊」の活動は、「桜」を題材とした自然体験活動であるため、どうしても春先の一定時期（開花から落花まで）に活動が集中する。そのため、年間を通じた取組には限りがあり、活動内容が毎年似通ってしまふなど、マンネリ化の課題も見られるようになってきた。こうした状況に対しては、活動終了後のアンケートや振り返りを通じて、児童の感想や教員・地域ボランティアからの意見を収集し、次年度以降の活動計画に反映させる工夫を行っている。また、観察だけでなく創作・発表・記録冊子の作成など、子どもたちの表現活動の幅を広げることで、多様な学びの要素を取り入れている。さらに、今後は「蝶屋桜守の会」との連携を一層深め、桜の「観察」活動に加えて「保全」の重要性を伝える仕組みづくりに力を入れていく必要がある。たとえば、樹木の手入れ体験や落ち葉掃除、小さな苗木の育成活動などを取り入れることで、自然とのかかわりをより立体的にとらえることができ、活動に新たな意義と魅力を加えることが期待される。加えて、活動の成果や課題を地域全体で共有するために、文化祭での発表後に関係者が集まり簡単な振り返りの場を持つなど、地域・学校・ボランティア団体の三者による協議・改善の機会を継続的に設けることが重要である。このようにして、限られた時期・テーマであっても、毎年新たな視点や体験を取り入れながら、持続的で深まりのある活動へと成長させていくことを目指している。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

令和6年度より、公民館からコミュニティセンターへ移行し、地域コミュニティ組織が設立されて本格的な運営が始まってから1年が経過した。地域は少子高齢化や人口減少、地域間のつながりの希薄化といった課題に直面しており、コミュニティセンターは、誰もが主体的に関わり、地域課題の解決に向けた「対話と実践の拠点」としての役割が求められている。事務局としては、地域住民一人ひとりが参加しやすく、持続可能な活動ができるよう支援を続けている。その第一歩として、既存事業の棚卸しと見直しを進め、地域コミュニティ組織が無理なく継続できる運営体制の整備に取り組んでいる。また、地域の声を丁寧に取り上げ、新しい発想や世代を超えたつながりが生まれる仕掛けづくりにも挑戦していく。さらに、令和3年3月に設立された「蝶屋まちづくり協議会」と連携し、地域とコミュニティセンターが協働して多様な事業を展開している。将来的には、コミュニティセンターが「地域づくりの知恵と力が集まる場」となり、住民が自分たちのまちの未来に関心を持ち、主体的に行動できる開かれた協働の場づくりに目指している。



子供たちと手を携え安全・安心の未来社会を

金沢市富樫公民館(石川県)



フィールドワークインタビュー

公民館の沿革・年表

- ・昭和27年 富樫公民館開設 (4月1日)
- ・昭和35年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・昭和52年 児童館併設し起工 (9月)
- ・昭和53年 完成・開館 (4月)
- ・平成17年 富樫公民館振興協会が指定管理者に
- ・令和3年 地域安全マップづくり事業開設
- ・令和4年 石川県優良公民館表彰受賞 (2回目)



事前学習クイズ

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

【地域安全マップ活動時の模様】

- ①左上の写真はフィールドワークにおいて石川県警の婦警さんと設定コースを調査し、危険・安全の理由をグループでワークシートに記入後、近所の方にインタビューしている。
- ②左下の写真は事前学習において調査のポイントと注意事項をレクチャーし、子供たちが理解できているかをチェックしている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	3204人	4. 利用可能時間	9:00~17:00
		2. 建物設置年月日	昭和53年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	247日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (金沢市富樫公民館振興協会) その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 6,508人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5,067人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 87人 その他 ()			合計	11,662人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 (職員のうち社会教育士の数 0人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)			合計	3人
10. 予算	市区町村予算 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 寄附等 その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり なし その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 家庭教育支援 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 障害者の学び支援 日本語教育の推進 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 こども・若者の居場所づくり 子育て支援 ボランティア養成 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (図書館 学校 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (児童館) 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 博物館 青少年教育施設 その他				

金沢市富樫公民館

OPEN 9:00~17:00 HP
TEL 076-241-1971 SNS

<https://togashi-pub.com/>
公式ライン・Instagram



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

石川県庁で県生活安全課主催の「地域安全マップづくり講習会」があり、校区小学校長、連合町会長を誘い受講した。北陸大学山本啓一教授のお話に深く感銘を受け、地域全体事業として団結し取り組むことを即決し教授のご指導を仰ぐこととした。

令和2年度より実施予定であったが、コロナ禍ほか諸般の事情により令和3年度より実施となった。学校との共催事業は従来からあったが、地域全体の安全にかかわる事業はなく、子供たちを犯罪から守り、地域社会全体の防犯力を向上させることが必要と考え実施することとした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【犯罪から子供たちを守る！地域安全マップ】

従来からの物理的な危険地帯発見や交通安全のための安全マップとは性格を異にしている。犯罪企画者よりも犯行の機会を提供する環境に着目する「犯罪機会論」に則した取組として実施した。子供たちが自らの力で犯罪にあわぬよう、日常生活の中で通学路や遊び場などを点検し、「危険な場所」「安全な場所」を見極める力を醸成するため、小学校の賛同を得て基本授業として毎年実施している。地域安全マップづくりの全体の流れには4STEPがある。

STEP1【事前指導（座学）山本教授、学生さんたちによる、子供たちの学習タイム】

①危険予測に必要なのは「人」ではなく「場所」であることを理解させる。②「入りやすく」「見えにくい」というキーワードを理解させる。③フィールドワーク時の班編成・役割分担を確認

STEP2【フィールドワーク】①設定ルート（概ね8ルート：1ルート構成児童9人大人4人）にて町歩き危険・安全場所を見つける。②発見場所を写真に撮りワークシートに記入③グループ全員でその場所が危険か安全か理由を考える④地域の人にインタビューをする。

STEP3【マップづくり】①調査ルートをストリートビューで確認②撮影した写真を共有し登録③目印等地名を記入し危険か安全かを示す④犯罪が起こりやすい/起こりにくい理由をキーワードをつかいコメントする。

STEP4【発表と事後学習】①各グループ代表が大型モニターを使用しルート上の調査ポイントについてキーワードを使い説明する。意見や感想を伝え合うことで理解を深める。



事前学習クイズ



安心・危険の理由を考える

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

地域事業を行う上で公民館は常に中核運営母体となるポジションであり、事業にご協力いただく団体とは日ごろから広くお付き合いがあるため、調整役を申し出た。北陸大学山本教授、学生さん達、警察関係者、町会関係者、公民館委員ボランティア、校区内各種団体への協力要請・スケジュール調整に始まり、事業実施要項の策定会議開催、経費的な補助等、十二分に存在感を発揮できた。

実施に当たっては子供たち60人、引率の大人40人の計100人以上の参加が平均的となった。今後も小学校や各方面と協力し、小学校5年生の正規授業を支えてゆきたい。



山本教授と学生さんたちと子供たち

4. 取組による成果や効果

この事業を通して慣れ親しんだ通学路とは違う場所を探検し、「危険な場所」「安全な場所」の見極めを学んだ子供たちには今までと違って見えるかもしれない。子供たちと地域が一体となり「犯罪機会論」を理解し、危険を予測し対処することでより安全な地域を実現できるのではと考える。

近年どちらかというと高齢者向けの運営に偏りがちであった公民館の事業が、一気に若返り拡大させることができた。学校、石川県、金沢市、地域すべての連携・協働を図ることができ、何より事業の趣旨をご理解いただき、正規の授業として取り入れていただいた小学校の英断には感謝しかなく本事業の最大の収穫であった。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

マップ作製には、子供たち各自のタブレットで記録した写真や資料を共有し、大画面のモニターで各グループ代表が発表し、子供たちで意見交換・検証作業を行う。この授業はDVDとして記録され、改善への貴重な資料となる。実施日以前に関係者の合同会議が行われ、前回の結果検証と実施計画が策定される。



安全マップグループ代表発表

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

「子供は地域で育てるもの」を実践し、これだけ多くの地域の皆さんが、かわりを持ってマップ作りに参画され、地域に守られていると子供たちに理解してもらい、公民館へ足を運んでもらえるようになれば幸いである。現在地域防災の観点から、地域自主防災会、コミュニティ防災士会と小学校が連携して事業を推進しており、地域の防犯・防災の裾野の拡大に寄与するものと考えている。



金沢市富樫公民館

清水東の宝《越前すげ笠》伝統文化継承の為に 福井市清水東公民館(福井県)



小学5年生すげ笠作り体験



体育祭での《清水すげ笠音頭》

公民館の沿革・年表

- 平成18年 旧清水町が福井市と合併
小学校校区内に1公民館という福井市の制度に準じ
清水総合支所2階に清水東・南・西公民館が設置
「越前すげ笠を守る会」の窓口を当館が引き継ぐ
- 平成22年 三留町に清水東公民館を新築移転
- 令和元年 「第1回 清水東の文化祭」開催
- 令和2年 コロナ禍での情報発信としてYouTube開設
- 令和4年 清水東地区まちづくり協議会 発足
「すげの郷オータムフェスタ」初開催

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- 越前菅笠の伝統を次世代に繋いでいくため、毎年清水東小学校5年生が、菅笠作りを小学校の授業として体験する。「越前すげ笠を守る会」の方々に講師をお願いし、伝統の継承と共に、世代間交流も図っている。
- 清水東小学校と清水東地区の合同体育大会では、最後に必ず「清水すげ笠音頭」を踊っている。小学生・保護者・教員・公民館職員も一堂に介して踊ることで、菅笠を身近に感じてもらい、住民同士が一体感を持つための活動である。

公民館情報		1. 公民館対象人口	1665人	4. 利用可能時間	9:00~21:00
		2. 建物設置年月日	平成22年4月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	278日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 861人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8,485人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ()				合計 9,346人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人)				合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ビオトープを活用した環境学習)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 { <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター } <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (清水東小学校・清水中学校・越前すげ笠を守る会・清水東放課後子ども教室・清水東地区まちづくり協議会 清水東地区体育振興会・清水東子育て支援委員会・清水東子ども会育成会・清水東地区社会福祉協議会 清水東地区自主防災組織連絡協議会・チームカトリア)				

福井市清水東公民館

OPEN 9:00~17:00 HP <https://sihiga-k.jp/>
 TEL 0776-98-4510 SNS 公式Line・YouTube・インスタ



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

越前で菅笠作りは、江戸時代から清水東地区周辺農家の副業として盛んに取り組まれ、仲介人によって全国に出荷されていた。越前菅笠は、縫い目の美しさや軽くて丈夫という実用性から、**福井県指定の郷土工芸品**にも選ばれ、清水東地区には、無くてはならない伝統工芸品となっている。しかしながら、菅笠製作の後継者不足は年々深刻な問題となっており、存続の危機に直面しているが、菅笠文化を存続させて欲しいという地域の要望は強く、「**越前すげ笠を守る会**」と共に、公民館では様々な角度から、**伝統文化継承活動**を行っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【小学生と菅笠学習会】（全3回）

清水東小学校と連携して、5年生に《**すげ博士養成学習会**》を「越前すげ笠を守る会」の方々と開催する。

①菅や菅笠の歴史について、クイズ形式の学習会 ②菅刈りの体験 ③菅笠縫いの体験
体験後児童達を「**すげ博士**」に認定している。

【中学生と菅笠PR事業】

SDKP（しみず・でんが・活性化・プロジェクト）を立ち上げ、菅笠を被った「かかし」を作り祭りや農道に設置する。「すげちゃん」マスコットを製作し、修学旅行先や清水まつりで配布する。広く**菅笠PRの一役を担っている**。

【菅笠づくり体験講座】

地域の方にも、毎年12月～2月にかけて菅笠製作の体験講座を開催する。笠骨作りと笠縫を体験し、**菅笠製作後継者の育成**をする。

【菅笠の日常使い】

公民館ビオトープの草刈りや、公民館のウォークラリー事業等では、菅笠を被り実施するなど、**伝統文化を日常に取り入れ**自然な形で文化を浸透させている。

【清水すげ笠音頭の普及】

小学校の体育祭や地区の文化祭、日頃の教育事業でも《清水すげ笠音頭》を踊っている。清水東地区の方は、曲が流れると同時に誰もが踊ることができ、地域の一体感を感じると共に、**郷土愛を育む教育の一因**となっている。



中学生と越前すげ笠を守る会の方々と共同でマスコット作り



公民館ビオトープの草刈り等地域の奉仕活動では必需品

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

公民館は各事業の企画や運営の中で、清水東小学校や清水中学校、「越前すげ笠を守る会」と連携して、活動場所や必要資材の確保、指導内容の整理や資料作成などを担っている。特に児童、生徒たちが親しみを持って参加できるよう、体験内容の工夫や安全対策を徹底し、学校現場と綿密な連携のもと、事業を進めていった。

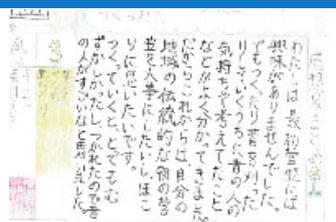
地域行事との連携も意識し、こどもたちが地域との関りを持ちながら学べる環境づくりに務めた。地域行事と連携することで、単なる学習活動にとどまらず、地域全体で文化を守り育てる仕組みを構築していった。新たに清水に越してきた子育て世代、菅笠を知らずに育った方達にも、行事参加時に被ってもらう事で、菅笠の良さを知ってもらい、愛着を持ってもらえるよう働きかけた。



この春のウォークラリー参加者が親子で菅笠を被ります

4. 取組による成果や効果

- 小学生が実際に越前すげ笠に触れ、製作体験を行うことで、地域の伝統文化の大切さを学び、郷土への誇りを育むことができた。
- 保護者からは「地域文化の価値を改めて実感した」等の声が寄せられ、伝統文化への理解と関心の高まりがみられた。
- 「越前すげ笠を守る会」からは、本取組みが後継者育成の一助になると期待が示され、文化継承の機運が高まっている。
- 地域全体としても、地元の伝統への関心や郷土愛が深まり、定住促進やまちづくりに向けた意識醸成につながっている。



すげ笠新聞（一部抜粋）

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館運営審議会からも広く意見を募り、より親しみやすく効果的な活動となるよう、情報交換していく。
- 児童が作成する《すげ笠新聞》に記載された感想などを基に、興味・関心の傾向を分析し、今後の内容をより分かりやすく、楽しく学べるよう工夫を重ねている。
- 菅の栽培体験なども取り入れることで、先人の苦労や知恵を学び、より深い理解と共感を通じて、文化継承を担う意識の情勢を図っている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

越前菅笠をより身近に感じ、愛着を持ってもらえるよう、世代を超えた文化継承活動へと発展させていきたい。世代間交流の機会を増やすことで、地域内のつながりを強め、共に支え合う地域社会の形成を目指す。

菅の生育を通じた環境学習や、環境資源としての活用も視野に入れ、持続可能な活動の展開を図る。今後も地域・学校・地域団体をつなぐ拠点として、公民館が「学び」と「文化」を次世代につながる場となるよう、取組みを進めていく。



清水東キャラクターの「すげちゃん」と菅笠を被る清水東小学校の二宮金次郎

地域でつくる公民館

上野原市大目公民館(山梨県)

公民館の沿革・年表

- ・昭和30年4月1日 上野原町(旧大目村と他6町村合併) 大目地区公民館開設
- ・平成11年4月1日 上野原町立大目小学校屋内運動場竣工 大目地区公民館併設
- ・平成17年2月13日 上野原市(旧上野原町と旧秋山村合併) 大目小学校屋内運動場 大目地区公民館併設
- ・平成20年 第1回大目地区文化祭(作品展示)
- ・平成22年 第2回大目地区文化祭(作品展示)
- ・平成23年3月31日 上野原市立大目小学校廃校 旧大目小学校屋内運動場 大目地区公民館併設
- ・平成24年 第3回大目地区文化祭(作品展示)
- ・平成26年 第4回大目地区文化祭(作品展示・演芸発表)
- ・平成28年 第5回大目地区文化祭(作品展示・演芸発表)
- ・平成30年 第6回大目地区文化祭(作品展示・演芸発表)
- ・令和2年 第7回 コロナ禍中止
- ・令和4年 第8回 コロナ禍中止
- ・令和6年 第9回大目地区文化祭(ミニ文化展)



大目公民館(旧大目小学校体育館)



大目地区公民館運営審議会

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

大目公民館の活動の場としては、公民館としての施設は十分でないものの、文化祭やニュースポーツなどの屋内競技については旧大目小学校屋内運動場、グラウンドゴルフ大会など屋外での競技については旧大目小学校屋外運動場を利用している。

また、各種教室や講座の開催については上野原市役所大目出張所の多目的ホールを利用するなど創意工夫しながらの公民館活動を実施している。

さらには、厨房設備の整っている地区の集会所を借用しての『酒まんじゅう作り教室』や『すいとん・お焼きづくり交流会』の実施についても、有効利用の取り組みを行っている。公民館活動の場は地区内の史跡や文化財など無尽蔵にある。コロナ禍にあっても公民館活動が途切れないよう、地区の『文化財めぐり』の回覧を発信するなど持続可能な取り組みを行ってきた。

公民館情報		1. 公民館対象人口	702人	4. 利用可能時間	9時~22時
		2. 建物設置年月日	平成11年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
		3. 開館日数	358日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 47人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,680人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 153人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 28人 ()			合計	3,908人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input type="checkbox"/> 非常勤 人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 10人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)			合計	12人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (旧大目小学校体育館) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (旧大目小学校体育館は、公民館活動で活用したり、一般住民へ社会体育施設として貸し出されたりしている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (上野原市社会福祉協議会(大目さくらの会)・上野原市政策秘書課(移住担当)・明治安田生命(健康講座)・社会福祉法人緑水会・永井吐無美術館)				

上野原市大目公民館

OPEN
TEL

0554-62-3409

H P
SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

大目地区は、少子高齢化が進み、地域活動の維持が難しくなっている。多様な団体と連携・協力し、地区住民の世代間を越えた交流の場を作り、地域文化の再発見や継承を行っている。地区公民館は市条例により廃校の体育館に設置されている。社会教育法に基づく公民館活動は有償ボランティアである公民館主宰（代表）・庶務が主体的に取組んでいる。また、地区公民館は教育委員会事務局との連携をはじめ、社会教育委員の参画を得て公民館運営審議会による活動計画の策定・実施結果の検証等を行い、地区住民のニーズに対応した取組を行っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【大目地区公民館文化祭】

この文化祭は、平成20年を初回に隔年に開催することとし、当初運営資金の確保が課題であったが、地区民の協力もあってバザーの浄財により運営してきた。またこの文化祭は大目地区民に芸術・文化活動の場を提供するとともに、交流によって芸術・文化の発展及び資質の向上に資することを目的とし今日に至っている。人口が少ない地区ながら各種団体の協力を得ながら、幅広い年齢層が参加できる内容とした。コロナ禍前に継続的に開催していた「大目地区文化祭」では、『演芸の部』では大人や子供の舞踊や歌唱の発表、中学校吹奏楽部の演奏など、『展示作品の部』では絵画、書道、華道や陶芸等の作品など、また体験コーナーでは竹細工での風車づくりなどにより充実した文化展となった。コロナ禍によりしばらく文化祭を中止していたが、令和6年度第9回文化祭として、まずは展示作品を中心とした『大目公民館ミニ文化展』を開催、特に永年、切絵および書道作品の創作活動に取り組んだ二人の特別企画展を加えた。来場者にはアンケートを行い、次回への羅針盤とした。



大目地区ミニ文化展

【伝統の味！酒まんじゅうづくり教室】

この教室は、地区老人会の会員が講師となり、古くから受け継がれているレシピにより上野原市の名物である酒まんじゅうづくりを行った。手作りならではの懐かしい家庭の味を楽しんだ。令和7年度は移住者や移住希望者との交流を図るとともに、昔からの郷土料理である「すいとん」や「お焼き」づくりを体験し伝統を継承していく取組みである。特に、上野原市では移住者の移住促進とあわせ空き家対策を推進しており、移住者との交流を踏まえた公民館活動により地区の魅力の発信となる。



酒まんじゅう教室

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

公民館活動は、人と人が集い、互いに学び、世代を超えてつながることを理念とし、特に『多様な主体との連携・協働』により交流の場をつくるのが重要である。各種団体や行政あるいは企業等のかかわりは、誰かが結びつけてやらなければ実現しない。このコーディネーター役は熱血漢をもった公民館主宰・庶務であると考えられる。大目公民館では、運営審議会構成員である区長会、民生児童委員、消防団、体育会や若葉会をはじめ、特に、老人会の『豊明会』や福祉に関わる『大目さくらの会（医師・ケアマネージャー・有識者等で構成）』、企業としては『明治安田生命』の健康講座を取り入れるなど、新たな企画による運営を行っており、特に高齢者へのニーズに対応した取組を行っている。また、指導・助言をいただいている社会教育委員との連携による持続可能な公民館活動の実現に向けた体制づくりの共有に努めている。さらには、公民館主宰は小学校運営協議会委員として参画し、社会教育または公民館の立場において意見・提言を行うなど学校と地域との連携に取り組んでいる。



明治安田生命公民館講座

4. 取組による成果や効果

コロナ禍によりしばらく交流が控えられていたが、活動の再開により、久々に会った知り合いと笑顔で会話する姿が見られ、充実した時間が過ごせた。地域の小中学生と高齢者が交流する機会がなかなかないので、公民館活動により地区のことや地区に住む人を知るきっかけとなり、普段あまり接点のない世代間の交流が生まれた。協力団体の若い年齢層の方々にも参加いただいたため、若い世代の方々にも地区のことをより知っていただく機会となった。特に、ミニ文化展では、作品を展示するために事前に公民館主催の『絵手紙教室』や『生け花教室』を開催し作品づくりを支援するとともに、日頃の成果を発表される場の提供を行うなど、新たな趣味づくりと相互の交流に取り組んだ結果、参加者からは次回の文化祭を楽しみにしていると好評であった。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館運営審議会は、年2～3回開催しており、年度計画の策定や事業報告はもちろんのことであるが、活動終了後にあつては活動内容の反省点を洗い出し、次年度の計画につなげていくとともに、結果の成果を評価している。各運営審議委員は、地区の代表者でもあることから、地区住民の意向を十分把握しており意見を反映することができる。特に、行事の結果として自己満足に陥らないよう、行事の参加者には意向を把握するためにアンケート調査や感想の聞き取り調査を行うなど検証と課題の解決に取り組んでいる。



運営審議会開催模様

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館活動に若い年齢層にも更に参画していただき、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を進め、持続可能な公民館活動を確立していく。自分の住んでいる地区を知って、好きになって、地区の人との交流のきっかけとなる活動として、『子供達には思い出づくり』、『高齢者には引きこもり防止とフレイル予防』などニーズに対応した取組を行ってきたい。今年度は、地区のことを知る機会として、地区内にできた私設美術館と上野原市歴史文化常設展示施設をめぐる企画をしている。また、今日的な課題としてのAI時代に向けた取組を考えていきたい。



私設美術館（永井吐無美術

地域をつなげ、楽しくつながる公民館を目指して

塩尻市中央公民館(長野県)

公民館の沿革・年表

- 昭和34年 塩尻市公民館発足
- 昭和56年 塩尻市中央公民館に名称変更
塩尻総合文化センター(中央公民館)開館
- 平成10年 全国優良公民館文部大臣表彰
- 平成30年 Facebook運用開始
(以後順次他のSNS運用も開始)
- 令和元年～ 公民館主事による公民館活動報告会 開催
- 令和2年～ 公民館活動記録集 作成
- 令和3年～ サマースクール公民館 開催
- 令和6年 公民館活動報告会をコミュニティ・スクール
と連携
コミスク公民館フェスタとして開催

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 地域住民や団体をつなげ、地域のネットワークが広がるようなハブの役割を担う
公民館や社会福祉協議会、図書館、ボランティア団体や住民をつなげ、公民館の事業化へつなげた。代表的なものは夏休みの子どもたちをメインターゲットとした「サマースクール公民館」。
- 公民館活動報告会からコミスク公民館フェスタへ
地域住民、また市長や教育長に公民館活動をより知ってもらうことを目的に、毎年度末公民館主事による活動報告会を開催。令和6年はコミュニティ・スクール関係者と連携し、「コミスク公民館フェスタ」として開催し、小中学校・公民館のポスターセッション、中学生と地域住民がともに登壇したパネルディスカッションなど開催。



サマースクール公民館



コミスク公民館フェスタ パネルディスカッション

公民館情報		1. 公民館対象人口	65037人	4. 利用可能時間	8:30～22:00
		2. 建物設置年月日	昭和56年12月5日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	341日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,523人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 54,129人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 101人 <input type="checkbox"/> その他 人 ()				合計 56,753人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)				合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 寄附等 その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (国際交流、平和学習、社会教育実習の受け入れ など)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ふれあいプラザ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地区公民館、市役所各部署、市内小中学校、松本大学、長野県生涯学習推進センター、社会福祉協議会、図書館、自然体験活動ボランティア熊野井塾、市民活動団体hana-tomoなど)				

左からfacebook, インスタ, XのQRコード

塩尻市中央公民館

HPから各種SNSを閲覧可能

OPEN 8:30～22:00

H P <https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/61/>

T E L 0263-52-0899

SNS facebook, Instagram, X, LINE



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 本館は全市民を対象とした事業展開、また地区公民館や分館活動が円滑に展開されるための連絡調整、多様な団体・地域住民を巻き込んだ公民館活動の推進が主な役割であるが、参加者の固定化、利用者の高齢化、また市民へ公民館活動が浸透していない課題等を抱えていた。より市民に親しみやすく、また大勢の人に公民館活動を知ってもらう仕掛けづくりを行った。
- 社会情勢の変化により、人間関係の希薄化や貧困問題などの課題が生まれ、またコロナ禍において公民館活動が衰退した地域も発生した。それらの課題解決のために、つながりの場づくりや地区公民館・分館の支援などを行いつつ、各講座にしっかり目的をもたせて実施した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

- サマースクール公民館（子どもをまん中にした活動）**
子どもたちが夏休みに1日楽しく学べる事業。7公民館、図書館、博物館、庁内部署など市の関係機関の他、社会福祉協議会や芸術団体、中学生高校生などに協力していただき、2日間で28講座実施。お昼ごはんはボランティアによるおにぎりや豚汁などの無償提供を行った。
- コミスク公民館フェスタ（学校教育と社会教育の協働）**
コミュニティ・スクール関係者と公民館が連携し、各種講座、各小中学校と公民館のポスターセッションや活動発表、パネルディスカッションを開催。当日は大勢の小中学生、保護者、学校教育社会教育関係者などが参加。
- 里山をフィールドにした活動（子どもたちの原体験）**
自然活動ボランティアの協力により季節ごとの里山を楽しむ活動を年7回実施。自然観察やシチューづくり、やきいもづくりなどを実施。また出張図書館を同時開催し、里山で読書や読み聞かせを楽しむ様子が見られた。
- ゆる活・公民館でおひるごはん（公民館活動に参加するきっかけづくり）**
公民館に気軽に来てもらうことを目的にテーマを決めて好きなことについておしゃべりする「ゆる活」、1品おかずを持ち寄る「公民館でおひるごはん」を毎月開催。
- インターナショナルお楽しみ会（国際交流）**
令和5年度より国際交流をテーマに開催。高校生大学生が企画・運営を行っている。外国籍住民だけでなく、国籍・年代問わず大勢参加し、食事やレクリエーションを通じて交流した。
- 公民館研究集会（地区公民館・分館支援）**
地区公民館・分館役員対象に事例発表や情報交換などの研修集会を年1回開催。「自分自身が楽しむ公民館活動」を目指し、役員自身が楽しみながら行う公民館活動を目指す集会。



里山 夏のデイキャンプ



公民館でおひるごはん

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- 地域のことを自分事に（公民館の認知度アップ）**
学習テーマを様々設けたことにより、固定層以外にも大勢の方が参加していた。公民館講座や地域活動に参加したことのない人が参加することがあり、地域デビューのきっかけづくりになった。自ら参加することで地域のことを自分事に考える感じる場となっている。
- 中央公民館と地区公民館、他団体との連携**
10地区公民館を年度始めに訪問し、事業の詳細や課題を共有。また地区公民館の要請から一緒に事業を企画・実施し、講座づくりの一助を担った。また市役所関係部署や社会福祉協議会などの情報交換を定期的に行い、そこから連携した事業に繋がることもあった。
- 住民自治の原点である分館活動の活性化へ**
公民館研究集会で分館同士の情報交換を行い、そこからお互いの分館の活動を見学したり、自らの地区の活動に取り入れる事例があった。当館でも分館から相談があれば助言をした。



地区公民館・社会福祉協議会と連携した防災料理講座

4. 取組による成果や効果

- ・公民館が誰でも気軽に来られる、活動に参加できる場として一歩前進し、中学生高校生、20-40代など以前はあまり参加がなかった年代の参加も増加してきた。
- ・地域住民や団体をつなげ、地域のネットワークが広がるようなハブの役割を担った。また地区公民館や分館、様々な地域団体や住民との連携を図った。
- ・公民館館長や主事、役員の意識の向上。自らが楽しみながら公民館活動に携わる意識が浸透し始めた。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 社会教育・学校関係者、社会福祉協議会、市民活動団体等で構成する公民館運営審議会を年2回開催。また審議委員には研究集会やコミスク公民館フェスタなどを案内し、実際に公民館活動を見てもらい意見をいただいた。
- 市内地区公民館長・主事で構成する公民館長主事会議を年7回開催し、各公民館の事業について情報交換を実施。
- 公民館事業の報告書とチラシをまとめた「公民館活動記録」を作成し、その際に1年間の活動について振り返りを実施。
- 講座実施時の参加者からのアンケートや会話等を今後の公民館事業の参考にしている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館は地域住民にもっとも近い地域拠点であり、人と人とのつながりを醸成する場であるので、気軽に公民館に来られる仕掛けづくりを継続していく。また地域のネットワークづくりを構築することが重要な役割であり、公民館が地域でのハブの質を高め、自らが楽しみながら地域をつなげていきたい。その楽しみの輪、つながりの輪が広がるような事業展開を大勢の住民や団体を巻き込みながら検討していく。



講座内で高校生と小学生が遊ぶ様子

SDGs・ESDの推進拠点施設～微力だけれども決して無力ではない～

豊丘村公民館(長野県)



中学生への講演



SDGs番組制作の様子

公民館の沿革・年表

- 昭和30年 豊丘村公民館 開館
- 昭和39年 豊丘村公民館条例 公布
- 昭和44年 旧公民館(福祉センター) 完成
- 平成26年 現在の公民館(交流学习センター) 完成
- 平成29年 全国公民館報コンクール 奨励賞受賞
- 令和3年 SDGs取り組み宣言
- 令和3年 全国公民館インターネット活用コンクール 奨励賞受賞
- 令和5年 長野県公民館活動アワード2022受賞

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

コロナ禍が開ける頃、成人を迎えるある一人から「3年間公民館の活動が無くても僕は生きてこれました。これから先も公民館はなくても大丈夫生きて行けます。」と。とても衝撃的な出来事だった。表面的にはコロナ以前に戻つつある様に見えるが、公民館はこの間大きな物を失ったのではないかと。SDGsを切り口に公民館を認知してもらうため、若い世代に公民館からメッセージを発信し続けることを行っている。左記写真は、中学生へ向けて発信している風景。

公民館情報		1. 公民館対象人口	6,472人	4. 利用可能時間	8:30~21:50 (水)のみ ~17:15
		2. 建物設置年月日	平成26年10月25日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,794人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11,662人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,794人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2,691人 ()				合計 17,941人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input type="checkbox"/> 非常勤 人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)				合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

豊丘村公民館

OPEN 8:30~21:50
(水)のみ ~17:15
TEL 0265-35-9066

H P <https://www.vill.nagano-toyooka.lg.jp/15sports/>
SNS Instagram・X



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

SDGs・持続可能・サステナブル・包摂などの言葉が一般住民の目や耳に浸透してきた2019年、現館長就任以降、公民館としてSDGs取組宣言を行いSDGs推進拠点となるべく公民館活動にSDGsの視点を取り入れている。人口減少や担い手不足は大きな地域課題となっており、お祭りや伝統文化の継承ができない、産業の担い手がいない、地域の消防団員確保もままならない現状で、持続可能な公民館を目指す意味は大きいのではないかと考えている。子や孫のために、今を生きる私たちは何が出来るのかを地域住民に問いかけ続けている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【一般住民・中学生向けに『SDGsってなに？』講演会】

一般住民や中学生へ向けて講演会を開催し、「SDGsとは？」「身近なSDGs」「自分たちでできること」などを繰り返し発信している。公民館分館の学習会や、住民有志の会などでも講演し、地域住民が身近に感じてもらう工夫を行った。

【公民館学習会の年10回の講座にSDGs目標を設定】

公民館が主催する「公民館学習会」では、年に10回の講座を開催し、地域住民の学びの機会を設けている。各講座には、SDGs目標を設定し、様々な学習を行っている。

【食品ロス削減キャンペーン 社協フードドライブへ参加】

社会福祉協議会と協働し、フードドライブを行っている。年間を通して受付しており、村民の皆さんが受付ボックスに入れていただいた食品は、社会福祉協議会を通じて、支援を必要としている家庭や村内の福祉施設等へお渡ししている。

【目標17パートナーシップで目的を達成しよう】

SDGsの目標17「パートナーシップで目的を達成しよう」が持続可能な地域をつくるうえでも重要と考えている。パートナーシップでの活動事例として、役場環境係とのSDGs勉強会の共催や、役場移住定住係と空き家セミナーをタイアップして開催した。また、県生涯学習センター研修会を豊丘村会場として共催するなど、関係機関との連携を大切にしている。



フードドライブ



公民館学習会（人権について）

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【地域住民のSDGsへの関心の高まり】SDGsは一般住民の目や耳に浸透してきてはいるが、地域の公民館が発信することにより、「どこかで聞いたことがある言葉」ではなく「自分ごと」として捉えるきっかけを与えている。

【SDGs = 日本再発見】「地域・日本再発見」がSDGsそのものと考え、日本ならではの「自然に対する感謝・畏敬の念」「もったいない」「お年寄りの知恵」「おばあちゃんの知恵袋」を見直すことが必要と発信している。SDGsを発信する際には、ESDの基本である家庭内でお年寄りから子・孫に継続的に教え伝えることの重要性を伝えている。

【時代に合わせた学習】中学生への発信では、目まぐるしく変わる学習方法に対応し、現在は、1人1台貸与されているタブレットを活用して自ら学べるよう、学びのヒントを与えるアプローチを行っている。

この子の未来のために何ができるのか



豊丘村公民館

SDGs発信ポップ

4. 取組による成果や効果

【豊丘村公民館 = SDGs】少しずつ、豊丘村公民館 = SDGsと認知されてきており、各方面で話題に挙げられることにより、さらに住民の関心や興味を高めるきっかけともなっている。

【学校との協働】中学校では、SDGsの学習を積極的に行うようになり、学習指導要領「持続可能な社会の創り手の育成」の一助となっている。

【パートナーシップの考え方の浸透】当村のみに限らず、地区・郡公運協事業で共催事業が増加した。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

【公民館運営審議会】各分館・学校・PTA・社会教育委員・地域関係団体等からなる公民館運営審議会を年2回開催し、事業報告を行っている。

【地域住民との対話】即効性のある取り組みでないため、検証は難しいが、地域住民との対話のなかで反応を見極め、需要や関心度に応じて周知を行っている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

住民自らがSDGsを自分ごとと感じ、地域社会が永く持続発展して行くために必要なものは何かを、地域住民が主体的に考え、住民どうしの対話を通じてより良い地域づくりができる後押しをしていく拠点としていきたい。

また、外国人の方への情報発信と、地域住民に多文化共生に関心を持ってもらえるよう、外国語を用いたSNS発信を始めている。



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

肥田町では、人口減少・高齢化などの影響を受け町民運動会の実施が難しくなってきた。その主な原因は、競技種目数が多く、住民の少ない町内会においては必要な選手を選出することが難しいこと。また、町内会対抗のため、無理に選手として出場しなければならないこともあり、日常生活においてほとんど運動をしていない参加者が全力で走ったり、競技したりするため多くの怪我人が出てしまうこと。このような状況を受けて、一部の町民からは町民運動会の廃止を求める声も上がった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【肥田町みんなのフェスティバル(地域資源を活用したまちづくり)】

町民運動会を「肥田町みんなのフェスティバル」とし、参加町民や体育協会の役員に過度な負担をかけない形で、より多くの町民が楽しく参加できる形を模索した。まず始めに、運営方法の見直しを行った。かつては、体育協会が運営のすべてを担当していたが、公民館が中心となって取組を進めた。公民館運営協議会において、町内各種社会教育団体等と連携、議論し、これまでの町民運動会は廃止し、それに代わる新しい形の活動を目指すこととした。

特筆すべきは、町民運動会の廃止を決めている自治体が多い中で、町民が一堂に集う大切な機会として新しい形を探っている点である。新たなイベントのアイデアを回覧板などを活用して町民から募集するとともに、2021年5月にイベント検討委員会を立ち上げた。メンバーは、区長会、公民館、体育協会、有志である。

その後、運営は、イベント実行委員会へと移行し、「新イベント開催の基本的な考え方」に基づき、運営された。基本的考えは以下の①～⑤である。①目的は肥田町住民の相互交流と健康増進とする、②イベントの参加は自主参加とする、③イベントの内容は住民の意見を聞いて柔軟に決定する、④主催は区長会及び肥田公民館とする、⑤実行母体は当面検討委員会とするが、体制が整った段階で実行委員会に移行する。

公民館まつりと同時開催とし、体育的イベントに限定せず、文化的イベントも計画してより多くの地域住民が参加できるようにした。



盆踊りの様子



ウォークラリーの様子

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

新しいイベントを立ち上げるにあたって町内住民の意見を幅広く聞く(アンケートの実施)とともに、町内社会教育団体に働きかけ、丁寧に合意をとりつつ実施種目や運営方法の検討を進めた。具体的には、町民から出された種目(活動)について、検討委員会において、各委員が評価を行い、上位となったものを実施することとした。評価は、次の6項目で行われた。①幅広い年齢層の参加、②地域住民の交流、③健康増進の有効性、④準備の負担(労力)、⑤準備の負担(費用)、⑥安全性と衛生面の確保である。さらに、公民館長と実行委員長が地元の肥田中学校の学校運営協議会委員も務めており、中学校との連携を密にすることによって、中学生ボランティアが数多く参加している(R6年度は、全校生徒150名中43名)。開催2年目以降は、中学生が1つのブースを任せられ、企画・運営にも参加している。



ミニテニスの様子

4. 取組による成果や効果

町内の多様な社会教育団体により運営することで、非常に多くの地域住民が参加した。また、多くの社会教育団体に協力を依頼したことにより、イベント開催の負担が一部に偏ることなく、平準化された。さらにボランティアとして参加した中学生が、町民との触れ合いの中で、町民の優しさや温かさ、人とかかわりの楽しさを実感することができた。この経験が郷土愛の育成につながり、将来地域を支える人材となっていくことが期待できる。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- フェスティバル参加者から感想等意見を収集し、後の実行委員会で分析する。
- 公民館運営協議会・イベント実行委員会において、関係者による評価。
- 中学生ボランティア等学校と関わる活動については、肥田中学校学校運営協議会において各委員から意見をもらっている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- 幅広い年代が交流できる場を提供することで、防災(共助)や防犯に役立てる。
- 小学生以下の子どもたちが多く参加することで、世代間交流の幅をさらに広げる。また、幼稚園、こども園などの年齢がより低い子どもたちの郷土愛を育み、将来の地域を支える人材を育成する。



中学生ボランティアたち

学びと出会う場所

静岡市興津生涯学習交流館(静岡県)



公民館の沿革・年表

昭和23年 興津町公民館が設立
 昭和36年 興津町が合併により清水市へ
 平成15年 清水市と静岡市が合併し新静岡市が誕生
 平成20年 公民館から生涯学習交流館へ移行
 平成24年 指定管理者制度導入
 (指定管理者 清水区生涯学習交流館運営協議会)

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

興津地区は、江戸時代より東海道の宿場町として栄えたことから数多くの歴史、文化、伝統が存在しています。この歴史、文化、伝統を次世代に繋げることを目的に、自治会をはじめ各種団体が連携・協働したまちづくり活動を活発に展開している。
 その活動拠点が生涯学習交流館である。

公民館情報		1. 公民館対象人口	11464人	4. 利用可能時間	9:00~21:30
		2. 建物設置年月日	平成16年3月18日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
		3. 開館日数	318日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (清水区生涯学習交流館運営協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 8,717人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 66,742人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ()				合計 75,459人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 6人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)				合計 7人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (代替会議体にて実施)				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高齢者の学び支援 女性の学び支援 等)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (興津小学校 興津中学校 東海大学 NPO法人AYUトリム NPO法人おきつ 静岡市 興津地区まちづくり推進委員会)				

静岡市興津生涯学習交流館

OPEN 9:00~21:30 H P <http://www.sgg-shimizuku-shizuoka.jp>
 TEL 054-369-1111 SNS <http://twitter.com/okitusgg>



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

平成29年に、興津地区にある清見寺の資料を含む日韓の朝鮮通信使に関する資料がユネスコの「世界の記憶」に登録され、多くの関心が寄せられた。このことを契機として、地域の歴史をもっと多くの人に知ってほしい、次の世代に繋げたい、そのためにはどのようにしたらよいかと、自治会をはじめ地元で活動するNPO法人、生涯学習交流館職員が検討した。

平和の使者であった朝鮮通信使を親しみやすく、わかりやすく、印象的に伝えていく方法は、また、興津地区の人たちの手で発信していく方法を検討した結果、朝鮮通信使の歴史劇を、自治会、NPO法人、生涯学習交流館が共催で講座として実施し、たくさんの人に見てもらおうこととした。地域色ある交流館講座のスタートとなった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【タイトル】歴史劇「和好の意」～仰天した朝鮮通信使～

興津地区でまちづくり活動に取り組んでいるNPO法人AYUドリームが中心となり、そのメンバーと中学生を含む一般公募の参加者13人が、令和6年7月から10回の講座を経て令和6年10月に歴史劇「和好の意」を地域住民の前で披露した。

冒頭の講座では、朝鮮通信使とその歴史背景を学んだ。

9月からの講座では、講師の熱心な指導のもと、歴史劇の本番の舞台に向けて呼吸法、発声法、演じる姿勢や感情表現などを身に着けた。講座の回を重ねるごと出演者同士のコミュニケーションが深まり信頼関係が生まれるなど、全員で作品を創り上げようとする姿勢が汲み取れるようになった。

歴史劇披露当日の会場には、中学校の生徒や先生に加え自治会関係者、一般の方も多数来場し、歴史劇を楽しみ、素晴らしい交流の場となった。

参加者のアンケートをみても、劇の内容がわかりやすかったと好評で、大勢の方に朝鮮通信使と興津の歴史を知ってもらった貴重な機会となった。



写真・10回講座の一幕 発声法



写真・歴史劇の風景

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【タイトル】歴史劇「和好の意」～仰天した朝鮮通信使～

- ・交流館講座として交流館による応分の経費負担と人的資源を投入している。
- ・交流館施設の貸し出しについて柔軟な対応をとっている。
- ・交流館だよりを活用し各方面に周知している。
- ・交流館講座終了後のアンケートに基づき参加者の意向を踏まえた次年度計画が樹立できている。
- ・交流館事業として取り組んでおり住民理解が深まっている。



写真・会場の様子

4. 取組による成果や効果

【タイトル】歴史劇「和好の意」～仰天した朝鮮通信使～

朝鮮通信使の歴史劇を2018年から上演している。

共催団体であるNPO法人AYUドリームと地元の興津中学校の生徒達にも演劇に出演してもらい、座学のみで歴史を学ぶのではなく、演じながら学ぶことでなお一層の郷土理解に繋がっていると考えている。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

地域の貴重な歴史・文化財産は後世に伝えるべきものであり、自治会、学校等と連携し、取り組みを継続する仕組み・方法を検討する必要がある。



写真・西園寺公望公と坐蒲荘 歴史劇

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

まちづくりを行うには関係機関、地域の団体、そこに住む人たちが連携することが重要である。交流館が関係機関としてその役割を果たすとともに、まちづくりに関わろうとする意識をもった人材を育てることを意識して活動を継続したいと思う。

交流館が、今後も地域とのかかわりが深い施設でありたいと思う。



写真・清見寺での歴史講座

花とみどりで地域を盛り上げる

静岡市南部生涯学習センター(静岡県)



花壇植え替えの様子



作品製作の様子

公民館の沿革・年表

昭和49年 静岡市南部公民館 開館
 昭和59年 優良公民館表彰受賞
 平成20年 静岡市南部生涯学習センターへ移行
 平成21年 指定管理者制度導入
 (指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団)
 平成27年 「なんぶ花いっぱいプロジェクト」開始
 平成30年 第14回花壇コンクールふれあい花壇賞
 受賞(静岡市花と緑のまちづくり協議会主催)
 令和5年 優良公民館等静岡県教育長表彰受賞

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- 「なんぶ花いっぱいプロジェクト」メンバーは、年14回の講座で花壇づくりやデザイン等について学び、センターや地域の花壇を整備することで学習成果を地域に還元している。写真1枚目は、講師がヨーロッパやアジアの庭園から着想を得て考案した花壇デザインをもとに、メンバーがセンター花壇を整備する様子。
- 活動について発信するため、静岡市の地場産業を広く紹介する「産業フェアしずおか」に毎年出展参加している。写真は、出展作品を製作する様子。

公民館情報		1. 公民館対象人口	57566人	4. 利用可能時間	9:00~21:30
		2. 建物設置年月日	昭和49年4月15日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
		3. 開館日数	293日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (公益財団法人静岡市文化振興財団) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 4,613人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 26,283人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ()				合計 30,896人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)				合計 7人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (南部生涯学習センター運営委員会)				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会的包摂の実現に資する事業、オンラインの活用、こどもの郷土愛を育む事業)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (静岡市教育支援センター)) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (静岡市立南部小学校、株式会社エスパルス、静岡市立登呂博物館、静岡市歴史博物館、自治会、静岡市地域福祉共生センター、地域子育て支援センター登呂ほか)				

静岡市南部生涯学習センター

OPEN 9:00~21:30 H P <https://sgc.shizuokacity.jp/>
 TEL 054-281-2184 SNS X, Facebookともに @shizuoka_sgc, LINE「静岡市生涯学習センター」



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【なんぶ花いっぱいプロジェクト（ボランティア養成）】

- 生涯学習センターが取り組むべき課題のひとつに、まちづくりの主役となる人材の育成がある。
- 地域内に自治会等が管理する花壇が多数存在することに着目し、地域振興とSDGs（ターゲット11「住み続けられるまちづくりを」）達成の一助とするため、花壇づくりや花木のアレンジという身近なことから地域に貢献できるという充足感を促し、環境整備に関わる人材の育成につなげようと考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【なんぶ花いっぱいプロジェクト（ボランティア養成）】

- 平成27年度、当センターの花壇づくりから始まり、同様の活動を行う団体との交流を促進し、協働により地域の花壇整備にも活動を広げている。
- 知識や技術の習得、向上のため、花壇整備を实践する他、自然素材を用いたアート作品の製作、世界の庭園や景観のデザインに関する座学等、様々な事業を展開している。
- 平成29年度には周辺地域の花壇を地図にまとめる「花の地図づくり」、平成30年度には周辺地域の花壇を巡るウォーキング講座「なんぶ花さんぽ」を実施し、周辺地域の情報を収集するとともに、花壇づくりに携わる団体との関係を構築した。
- 令和4年度以降毎年、静岡市の特産品等を市内外に広く紹介する「産業フェアしずおか」に出展参加し、活動実績を発信している。当プロジェクトが静岡市産の花木を活用していることから静岡市農業政策課より参加依頼を受け実現したものである。
- 現在は11名のメンバーを中心に安定的な活動が行われている。



花壇の土を準備する様子



産業フェアしずおか出展の様子

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- 年間講座及び関連事業の実施により、花壇整備ボランティアに係る人材を育成する。
- 他団体との連携推進や新たな連携先の発掘、連絡調整により活動の拡充を図る。
- 教育機関との連携推進により、こどもの豊かな感受性の醸成の一助とする。
- 「産業フェアしずおか」等、活動成果発信の場を創出する。
- 花壇整備及び展示作品製作に係り、職員も共同作業を行い、参加者の絆を深める。



花壇デザインについて講師が解説

4. 取組による成果や効果

- 過去には地域の小学校や高等学校、専門学校で児童生徒とともに花壇づくりを行った他、現在もJR東静岡駅周辺の花壇づくり団体と連携し、活動を地域に広げている。
- 令和6年度には、当センターとともに複合施設内にある静岡市教育支援センター「かがやく教室」と連携し、不登校の児童生徒とともに花壇整備を行い、こどもの情操教育や地域交流に寄与した。
- 「地域社会の現状や抱える問題を理解できたか」「こんな社会になってほしいという将来像はイメージできたか」「地域や社会をよくするために行動していきたいか」というアンケートに対し、受講者全員から「はい」と回答を得られ、受講者の評価や満足度、シチズンシップに対する意識の高まりがうかがえる。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

以下の方法で意見や評価を聴取し検証を行い、改善に役立っている。

- 事業実施中の交流や終了後のアンケート調査
- プロジェクト関連事業「地域の花壇づくり情報交換会」の実施
- 近隣小学校教員、自治会関係者、施設利用者等で構成する「南部生涯学習センター運営委員会」の実施



地域の花壇づくり情報交換会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- 「学ぶ楽しさ、つながる喜び、ひとまかも豊かにするセンター」を目指し、多様な学習と交流の機会を提供し、その成果を地域社会に活かしまちづくりに貢献する。
- 取組の継続により、市民が花とみどりに触れ心豊かに過ごすことのできる魅力あふれるまちづくりの一助とする。
- 学校の地域理解授業で児童生徒来館時に花壇整備体験を行い理解・関心を促す。



トルコの風景に着想を得たデザイン

学校と公民館から広がる新しい地域の輪

蒲郡市府相公民館(愛知県)



①地域の方が子供たちと一緒に苗付け



②中学生が公民館の看板を制作

公民館の沿革・年表

- 昭和25年4月 府相公会堂(木造平屋建)を公民館に改造し、発足
- 昭和39年12月 竹島遊園地内に公民館を新築
- 昭和40年1月 開館
- 昭和42年11月 全国優良公民館として文部大臣賞を受賞
- 昭和51年 蒲郡市南部市民センターを併置
- 令和2年3月 蒲郡市南部市民センターを廃止
- 令和2年4月 竹島小学校内に移転新築

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- ①「ハッピー畑」
公民館と小学校の間にある畑を、子供たちが「ハッピー畑」と名付け、地域の方と一緒に作物を育てている。
- ②「中学生による公民館看板制作」
公民館新築に伴い、地域の交流拠点となるシンボルとして、新しい公民館の看板を学区の中学校の美術部と連携して制作。子供たちの思いが込められた看板が取り付けられた。

公民館情報		1. 公民館対象人口	3,815人	4. 利用可能時間	9:00~21:00
		2. 建物設置年月日	昭和25年10月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		3. 開館日数	285日(令和6年度)	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	128台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (蒲郡市府相公民館管理運営委員会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 447人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 17,119人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 7,071人 (会議・イベント等)				合計 24,637人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)				合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (学校の施設内に併設、学校の特別教室を共用)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (竹島小学校、蒲郡中学校、府相地区総代会、社会福祉協議会)				

蒲郡市府相公民館

OPEN 9:00~21:00

TEL 0533-68-2705

H P <https://www.city.gamagori.lg.jp/site/husoukouminkan/>

SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・近年のライフスタイルの変化により、子供会や老人クラブ等の地域活動が減少しつつあり、市内でも地域コミュニティの希薄化が進んでいる。
- ・公民館移転を機に、学校施設内に新公民館を建築することで、「学校を核とした地域づくり」を公民館を中心にモデル的に進めることとなった。その立地の強みを生かし、様々な活動が行われ、地域住民が交流する場が提供されている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【みんな集まれ！「ハッピー畑」(地域学校協働活動)】

公民館の移設に伴い生まれた学校のスペースを、公民館の利用者である地域住民が借りて畑にし、作物を作り始めた。そこから少しずつ地域住民と学校との交流が始まり、授業で地域の方が子供たちに苗の植え方を教えたり、できた作物と一緒に収穫したりするようになった。小学校では、子供たちがお世話になった地域の方を招待して、「ハッピー畑」で収穫した野菜を使った料理をふるまうパーティーを開催した。「ハッピー畑」は、毎週水曜日の午前中に自由参加で活動しており、気軽に参加できる場として地域住民同士のつながりややりがいを創出している。



「ハッピー畑」で大根の種まき

【公民館ポスター教室(放課後子ども教室)】

公民館が放課後子ども教室として「夏休みポスター教室」を主催している。学区の美術部の中学生や地域住民を講師に招き、様々な年代が集まってにぎやかに開催されている。その日の昼食は、地域住民が「ハッピー畑」で採れたじゃがいもを使用してカレーライスを作り、参加者みんなと一緒においしく食べる。この講座には中学生も積極的に参加しており、公民館と小学校を中心として、地域住民の多世代交流の場が生まれている。その他の放課後子ども教室も公民館施設を使用している。



ポスター教室

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【みんな集まれ！「ハッピー畑」(地域学校協働活動)】

公民館長をはじめ、「ハッピー畑」に来ている地域住民は、公民館をよく利用する地域住民に声をかけて集まっている。公民館を拠点として活動しており、畑作業の合間には公民館で休憩したり参加者で談笑する場を提供している。「できる人ができるときに」を体現し、気軽に集まれる雰囲気づくりをしている。

【公民館ポスター教室(放課後子ども教室)】

企画・宣伝や中学生との調整を、地域住民や地域学校協働活動推進員を通じて行った。普段から公民館の事業に対して中学生ボランティアを募っており、中学生が気軽に参加する姿が多くみられるようになった。



公民館まつり 中学生ボランティア

4. 取組による成果や効果

- ・「ハッピー畑」では、地域住民が生き生きと活動しており、子供たちも積極的に地域の方と関わるようになった。学校も授業で公民館を活用することが増え、子供と地域住民で地域防災について考える授業も行った。
- ・「中学生ボランティア」が、放課後子ども教室や公民館まつりで募集し、参加するようになってから、地域とのかかわりに対する中学生の意識の向上が見られ、その結果、中学校で有志で「ボランティアサークル」が発足した。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会関係者、地区の学校長、保育園長、公民館利用団体代表者等で構成する公民館運営審議会を年間2回開催。
- 地域学校協働活動について、学区の学校運営協議会に公民館長が委員として参加、学区の教育方針や目標を共有しつつ、公民館事業にも落とし込んでいる。



蒲郡中学区学校運営協議会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

既存の地域団体やコミュニティを支援しつつ、小中学校も巻き込んだ新たな形での地域コミュニティの形成のため、公民館が交流拠点となるべく事業やイベントを企画していきたい。地域住民同士の顔がつながり、自助・共助の意識の広まりや地域課題の解決に向けた取組が、公民館を中心に行われるとよい。



地域と子どもと一緒に防災を学ぶ

水南公民館でつながる、心と心の交流

瀬戸市水南公民館(愛知県)



韓国利川市ホームステイ交流



アフタースクールサロン

公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 瀬戸市水南公民館設立。
- ・平成21年 韓国利川市倉前洞自治会との交流を開始
- ・平成30年 中学生のホームステイ交流を実施
- ・令和5年 コロナ禍で一時中止となっていたホームステイ再開
- ・令和6年 「公民館と学校の協働活動補助事業」の研究事業として「アフタースクールサロンin水南公民館」を開催

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- ・韓国の利川市の中学生と水南地域の中学生のホームステイ交流。水南学区の中学生が訪韓し、学校を視察したり、市長に表敬訪問したりするとともに、工芸品づくりや調理実習など、両国の文化理解を促進するプログラムを実施した。
- ・小学生の下校後の居場所づくりを目的とした、「アフタースクールサロンin水南公民館」を全15回開始した。その中で行われた工作教室の様子。

公民館情報		1. 公民館対象人口	10,435人	4. 利用可能時間	9:00~21:00	
		2. 建物設置年月日	昭和28年2月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
		3. 開館日数	356日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (瀬戸市公民館協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	2,830人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	10,600人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	2,000人	()			合計 15,430人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	2人	<input type="checkbox"/> 兼任	人	<input type="checkbox"/> 非常勤	人
	(職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)					合計 2人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動		
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援		
	<input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input type="checkbox"/> 子育て支援		
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 社会人の学び直し		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (国際交流)					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
	<input type="checkbox"/> その他	()				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (住宅街の中にあり小学校が隣接している。)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学		
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input type="checkbox"/> 行政機関		
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他		
	(水南保育園、水南小学校、本山中学校、水南連区自治会)					

瀬戸市水南公民館

OPEN	9:00~21:00	H P	なし
TEL	0561-21-2556	SNS	なし

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【国際交流】瀬戸市と韓国利川市は、焼き物の産地の縁から平成18年に姉妹都市連携を開始。利川市から住民同士の交流を提案されたことを受け、水南公民館が積極的に関与し、平成21年から文化交流を深めてきた。平成30年に中学生のホームステイ交流も実施した。その後、コロナ禍となったため、交流は一時的に中断していたが、令和5年より交流を再開した。

【学校との連携事業(コミュニティスクール)】令和6年度「公民館と学校の協働活動補助事業」の研究事業として、「アフタースクールサロンin水南公民館」を開催。児童の下校後の居場所の一つとして、全15回延べ160人の小学生が参加した。

2. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など)

【国際交流(体験活動、国際交流)】

情報交換と学び合い

韓国利川市倉前洞住民自治会と情報交換や活動紹介を行い、相互の学びを深める。

交流イベントの開催

利川市からの訪問団を水南公民館まつりに招待し、「韓国利川市交流ひろば」を設け、韓国の文化や生涯学習を紹介するパネル展示、工作体験教室を実施。

中学生のホームステイ交流

両国の文化理解を促進するプログラム(和菓子づくり体験、授業体験等)を実施。

文化講座の開催

諸外国の文化(言語、音楽、食事)の紹介講座を実施し、地域住民の国際理解を進める。

オンライン交流の実施

コロナ禍でも交流を継続するために、Zoomを利用して韓国語サークルと利川市の日本語サークルでの交流を実施。

【学校との連携事業(地域学校協働活動、子ども・若者の居場所づくり、コミュニティスクール)】

公民館まつりで小学校の体育館を使用し児童の作品や演奏の発表、児童下校後の居場所づくりとして工作や鑑賞会等を実施。



ホームステイ交流(和菓子づく)



国際理解講座

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

水南公民館は、地域住民の文化交流のプラットフォームとしての役割を果たしている。また、交流イベントの企画や運営においては、地域のニーズを反映させるための事前調査を実施し、参加者の意見を取り入れたプログラムを展開。地域に寄り添い、地域の未来を考えた事業を運営できるよう工夫している。



地域のニーズを反映させた事業を実施

4. 取組による成果や効果

国際交流の促進:中学生や地域住民の国際理解が深まり、異文化交流の機会が増加した。

地域の活性化:水南公民館を中心に地域コミュニティが活性化し、住民の参加意識が高まった。

文化教育の充実:講座や体験活動を通じて、地域住民の文化的知識や技能が向上した。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

定期的に活動内容の充実と改善を図るためアンケートを実施。集まった意見をもとに次回のイベントや講座の内容を見直し、住民のニーズに応じたプログラムを構築。また、運営スタッフ間での定期的な会議を設け、取組の進捗や課題を共有することにより、改善点を明確にして今後の運営に反映している。



運営スタッフで検討した公民館まつり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

地域の特性を活かした新たな講座やイベントを企画し、市民の参加を促進することで、地域の活性化に寄与したい。



公民館の外観

地域の魅力を知り つながる 吉津地区

吉津地区公民館(京都府)



R6.9 吉津地区フィールドワーク



R6.12 焼き芋大会

公民館の沿革・年表

昭和32年 公民館開設
 平成22年 吉津地区公民館建替
 平成27年 第68回 優良公民館表彰受賞
 令和4年 吉津小学校学校運営協議会に参画

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

<上段：吉津地区フィールドワーク>

多くの方に吉津地域のことを知ってもらうため、小学校や学校運営協議会委員とともにフィールドワークを実施。地域学校協働活動推進員が案内しながら名所を巡り、地域の魅力を再認識する機会となった。

<下段：サツマイモ掘り体験・焼き芋大会>

農家組合や農業お助け隊の協力の下、サツマイモ畑の整地から苗植え、管理までを行い、実ったサツマイモを子ども園の園児や小学生が芋掘り体験として収穫。収穫したサツマイモで、焼き芋大会を行ない、親睦の機会となった。

公民館情報	1. 公民館対象人口	1537人	4. 利用可能時間	8:00~22:00
	2. 建物設置年月日	平成22年3月23日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
	3. 開館日数	281日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	8台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 299人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8,685人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 255人 <input type="checkbox"/> その他 577人 (吉津サマーフェスティバル、ふれあい芸能祭、門松製作)			合計 9,816人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)			合計 2人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()			
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市役所の出張所を併設している) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域の中心にあり、地域の住民団体が利用しやすい場所に立地している。)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他			

吉津地区公民館

OPEN 8:00~22:00 H P <https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/17/4897.html>
 TEL 0772-46-2041 SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【背景】

吉津地域は、長年にわたり多世代交流がさかに行われており、人と人のつながりが濃い地域性である。また、地域内にある吉津小学校は、探究活動に力を入れており、地域の方の協力を得ながら知識を深めている。

【地域課題】

人口減少や少子高齢化が進み、公民館事業への参加者や地域の担い手が少なくなっている。そのような中でも、吉津に住む人や関係する人が地域のことを知り、地域に愛着を持ってもらう仕組みづくりが必要である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

特徴的な活動

<吉津地区フィールドワーク>

- ・多くの方に吉津地域を知ってもらうため小学校や学校運営協議会委員とともに企画
- ・当初は、小学生の総合的な学習の時間に協力する形で、事前に名所までの下見や除草作業、山道の整備を行った。
- ・子ども達が名所を巡って作成したポスターは、公民館内に展示し、来館された多くの方々に見てもらった。

・令和6年には、新しく吉津小学校に着任された教職員の方々にも、地域を知ってもらおうと、吉津小学校の教職員を対象としたフィールドワークを実施。地域学校協働活動推進員の案内のもと、地域住民と教職員が一緒になって活動した。7月は、須津地区東側の山林に入り、古墳群を探索。同年9月には日本三景天橋立を有する文珠地区の名所を巡った。

<旧製鉄遺跡探索（宮津天橋高校学習会）>

- ・地元の高校から公民館宛にメールが届いたことをきっかけに、地区内の製鉄遺跡を巡る学習会を行った。製鉄遺跡に詳しい地元の方を招き、高校生とともに、公民館内で製鉄遺跡に関する学習をした後、現地へ行きフィールドワークを実施。後日、高校生は、当時の工程を参考に製鉄づくりを再現した。



吉津地区フィールドワーク



旧製鉄遺跡 探索

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- ・吉津地区フィールドワークを実施する前のコースの下見や除草作業、山道の整備には、地域の他団体の協力を得ながら実施した。世代間交流がさかんな当地域だからこそ人が協力してくれるものと感じる。
- ・当公民館は、地域内外の多くの方々に、会議やサークル活動等で積極的に利用していただいているのが特徴。フィールドワークを通して子どもたちが作成したポスターを当公民館内で展示し、活動内容を周知することで、多くの方の目に留まり、絶好のPRの場となっている。

4. 取組による成果や効果

- ・子ども達の学習と連携することで、子ども達のまわりにいる大人達が参画してくれる。
- ・活動内容を公民館内で展示することにより、来館してくれる地域内外の方にも活動を知ってもらっている。
- ・地域の名所に実際に行き、歴史と関連づけることで、地域のことを深く知ることに繋がっている。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・年間計画に基づき事業実施をしている。活動ごとに反省会を行い、検証・改善について、意見交換を行っている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- ・少子高齢化が進み、当地域の人口減少も顕著であるが、これからも世代間のつながりを大切にしたい。
- ・地域内外に関わらず、当公民館を拠点に交流し、当地域に関係する人が増えたら良いと考える。

災害で誰も死なないまちづくり

鳥取市立小鷲河地区公民館(鳥取県)



令和5年度防災運動会・消火的当てゲーム



令和6年度防災運動会・防災クイズラリー

公民館の沿革・年表

- ・地区公民館の成立は旧小鷲河村時代の昭和22年頃。
- ・昭和30年の町村合併で小鷲河村は鹿野町となる。
- ・平成16年11月1日の鳥取市との合併で鳥取市立小鷲河地区公民館という名称になる。
- ・旧小鷲河地区公民館が耐震診断で倒壊の恐れありと判定されたため、平成30年3月に旧小鷲河小学校プール跡地に新公民館が完成し、今日に至る。
- ・令和5年度から地区大運動会に防災に関する種目をとり入れ、「小鷲河地区防災運動会」を開催。

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- 令和6年度は種目を増やし、実施競技の約半数が防災種目となった。内容は「防災障害物競走」「防災担架競走」「防災ジェスチャーゲーム」「防災クイズラリー」「消火的当てゲーム」「消火バケツラリー」の6競技。従来の飛んだり跳ねたり全力疾走の種目ではなく、幼児から後期高齢者まで全員が参加できる内容のものもある。
- 防災クイズラリーは地区防災指導員の協力で出題、ほぼ全員が参加した。高齢の方は一昔前の防災知識のままの方が多く、新しい情報を得ることができたと好評だった。

公民館情報		1. 公民館対象人口	355人	4. 利用可能時間	8:30~22:00	
		2. 建物設置年月日	平成30年3月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	1,055人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	868人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	635人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	207人 ()	会議等 ()		合計	2,765人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任	人	<input type="checkbox"/> 兼任	人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	3人
	(職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)				<input type="checkbox"/> ボランティア協力者	人
				合計	3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動		
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援		
	<input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input type="checkbox"/> 子育て支援		
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 社会人の学び直し		
	<input type="checkbox"/> その他	()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
	<input type="checkbox"/> 自由記述	()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学		
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関		
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> こじか園、鹿野学園 (小中一貫校)、小鷲河ふる里をまもる会、小鷲河体育会、小鷲河地区自主防災会連絡協議会、鹿野町社会福祉協議会、鹿野地域人権教育推進協議会など					
	()					

鳥取市立小鷲河公民館

OPEN 8:30~17:00 (平日)

H P <http://chiiki.city.tottori.tottori.jp/kowashigawa-1/>

TEL 0857-84-2054

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

人口減少・高齢化に伴い、地区運動会参加者の高齢者割合が高く、これまで通りの内容で開催することが次第に困難になってきたところ、体育部長から種目を見直してはどうかと提案があった。また、自主防災会では各集落の自警団が解散され、町内自主防災会の防災訓練実施が困難な状況となっていた。公民館とまちづくり協議会の事業「防災講座」は、毎年約20名が参加し実施しているが、小鷲河地区全体としての防災訓練が出来ていない。そこで、人が多く集まる“運動会”で防災訓練を実施する事を計画した。少人数でなおかつ高齢者にも参加しやすい種目を考案し、令和5年度・6年度は「防災運動会」として実施した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【災害で誰も死なないまちづくりを目指す】

小鷲河地区は95%が山林の中山間地で2級河川の河内川の両岸急傾斜地に7つの集落からなる地区。総合防災マップでは居住地が“急傾斜地_特別警戒区域”と“土石流_警戒区域”となっている。また山間部では雨量が多く、河川の氾濫、河岸浸食・がけ崩れ、土石流、地滑りの恐れがある。実際に令和5年度の台風7号で矢原集落手前の県道が崩れて通行止めとなり孤立集落に！その他にも河内集落は消防署から一番遠方となっている。また、冬の積雪は多く、消防車の到着が遅くなる。

令和5年度住警器等配布モデル事業の実施（住警器100個、消火器25本、防災毛布25枚贈呈）等々、**防災意識は高い！！**

○大規模災害時は行政も被災していることが多く、迅速な救助活動が難しい場合もある。そこで自助、共助の部分が重要と考え、個人・集落・地区での防災力アップを図ることを計画した。

○防災運動会は令和5年度に初めて実施したところ、集落役員や参加者の方から好評だったこともあって令和6年度は防災関連種目を増やして開催した。

○「こわしがわ防災講座」を開催して防災知識の向上、集落内の危険個所の現地確認、防災用品の紹介、展示などを行い、地区の自主防災会連絡協議会や地区防災指導員の方と連携して意識の向上を図る事業を開催している。

○小鷲河ふる里をまもる会と連携して「河内川の立木伐採ボランティア」を募集したところ18名の方に会員登録していただいた。河内川の増水時に危険な川床と土手に生い茂った立木を伐採する活動もしている。

○令和5年8月の台風災害を受けて、河内区の3集落に孤立時の防災食を配置した。



「こわしがわ防災講座」



河内川の立木伐採

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

○他の組織との連携窓口としての役割

人口の少ない地区でも大きな事業を開催するには地区内の組織の連携だけでは困難。他の団体と連携して少しずつ力を借りながら計画・実施した。

- ・地区体育会：種目作成、当日運営、選手集め、役員依頼など
- ・地区自主防災会連絡協議会：種目作成のアイデア
- ・地区防災指導員：防災関連種目の作成（防災クイズラリーの出題作成）
- ・小鷲河ふる里をまもる会：開催費用の補助
- ・各集落自治会：実行委員会の開催
- ・鹿野学園：当日の役員ボランティア依頼
- ・鹿野町総合支所：鹿野町社協：鹿野郵便局：使用道具の借用など



防災担架リレー 負傷者役の生徒

4. 取組による成果や効果

参加者が比較的多い運動会に防災関連事業を結びつけることにより、“多くの方に楽しく学ぶ機会”を提供でき、参加者からは、「自分の防災意識が高まった。」「消火器を使ったことがなかったので勉強になった。」「間違った防災知識を正すことができた。」「幅広い年代が集まるイベントはなかなか無いので続けてほしい。」などの感想が寄せられた。また、運動会と防災訓練の合同開催とすることで、別々に開催する場合と比較し、役員の労力を減らすことができた。若年層には事業運営に関わることによる達成感を、高齢者には事業に参加できる喜び、防災に関する知識を提供することができた。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○「防災運動会」のPDCAサイクル

毎年12月に公民館運営委員宛に公民館経過報告書送付をする際、集落内での意見の集約を依頼し、1月と3月の運営委員会で意見の集約結果を報告した。

4月の体育部理事会で承認後に、運動会実行委員会で競技内容等の詳細を決定する。



運動会実行委員会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

2、30年後は現在の小鷲河のような地区は大幅に増えていると考えられる。生活交通の不便さ、人材不足などの問題もあるが、解決に向けてプロジェクトを発足させて取り組んでいる。「少子高齢化の先進地モデル」として「災害で誰も死なないまちづくり」プラス「過疎化・高齢化しても生き残る地区」を目指し、目標達成の拠点としての役割を果たしていきたい。



小鷲河生活交通プロジェクト

笑顔の花咲く安田公民館

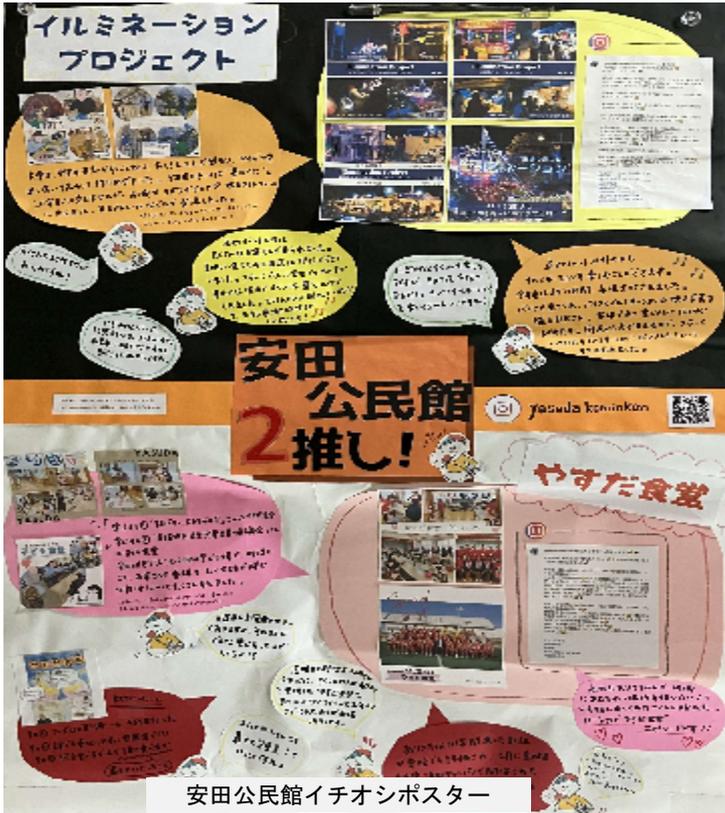
益田市安田公民館(島根県)

公民館の沿革・年表

- 昭和27年 安田公民館開設
- 平成16年 安田地区振興センターを設置
- 平成21年 優良公民館表彰(県教育長表彰)を受賞
- 平成30年 安田地区振興センターを廃止
- 令和2年 第1回イルミネーションプロジェクト開催
- 令和6年 やすだ食堂実施

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- ・益田市内の公民館では、1年間の取組を総括したポスターを毎年作成しており、公民館職員同士の情報交換や「ひとが育ち輝くまち益田夏フェス」での展示などに活用している。安田公民館では、令和6年度の取組を「安田公民館2推し!」としてポスターを作成した。
- ・地域で活動する大学生と中学生が企画の中心となり、イルミネーションの装飾や点灯式の開催などによって公民館を盛り上げた。
- ・「地域食堂」をテーマに課題探究に取り組む高校生に公民館が伴走し、様々な地域の団体や住民の協力を得て「やすだ食堂」を実現させた。



安田公民館イチオシポスター

公民館情報	1. 公民館対象人口	3327人	4. 利用可能時間	8:30~21:00
	2. 建物設置年月日	平成17年5月29日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
	3. 開館日数	232日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	不明
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	275人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	8,667人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	1,855人	(会議・文化祭・イルミネーションイベント 等)	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	4人	<input type="checkbox"/> 兼任	人
	(職員のうち社会教育士の数 人)		<input type="checkbox"/> 非常勤	人
		(職員のうち社会教育主事有資格者の数 人)		合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し
	<input type="checkbox"/> その他	()		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (図書室、おしゃべりカフェ(談話スペース)、日本海を望む景観)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他
	(安田地域づくり協議会、安田つろうて子育て協議会、東陽中学校区ネットワーク会、東陽地区民生委員児童委員協議会、安田ボランティア協議会、安田地区更生保護女性会等)			

益田市安田公民館

OPEN 8:30~17:15 H P

TEL 0856-27-0001 SNS

<https://www.instagram.com/yasudakominkan/>



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

安田公民館は、世代を超えた交流の場づくりを公民館運営の柱に掲げている。しかし、コロナウイルス感染症流行の影響によって教室や行事などを中止にせざるを得なくなり、地域住民が集う機会がなくなってしまった。そこで、感染症対策を取りながらも、住民が楽しみながら集まることができる場を作りたいと考えた。また、日常的に住民の「やってみたい」の声を聞き、住民ニーズの実現に向けた支援に取り組んでいる。安田地区に住む益田翔陽高校の生徒が「地域食堂」をテーマに課題探究に取り組んでいることを聞き、この取組に伴走することで、高校生の思いを実現させ、子どもから大人まで多くの人が交流する場を作りたいと考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【やすだ食堂（地域学校協働活動）】

「笑顔がいっぱい人と人がつながる場を作りたい」「地域の方々が安価で楽しく食事のできる場所を作りたい」という生徒の思いを大切に、生徒が提案した計画やアイデアをもとにアドバイスをしたり、一緒に協力者のもとに出向いたりした。学校・保育園・民生委員・料理アドバイザー・ベルガロソいわみ（生徒が地域食堂をテーマにするきっかけとなった、地域食堂への支援に取り組むサッカーチーム）らと連携し、令和6年8月4日と11月24日に「やすだ食堂」を開催した。

【イルミネーションプロジェクト（世代間交流）】

感染症対策として3密を避けつつ、住民が公民館に足を運んでくれる取組として、令和2年度に「イルミネーションプロジェクト」を立ち上げた。現在でも、地域をさらに元気にすること、住民が気軽に参加でき、多様な世代が集まる場を目指して続けている。東陽中学校の有志生徒と安田地区で海の家を営業する県立大学生が企画の中心となり、毎年イルミネーションのテーマを決めている。多くの地域住民と一緒にイルミネーションを作り上げ、12月から1月まで公民館で点灯。また、点灯式を開催し、保育園・小学校で作った紙灯籠の展示や、高校生の進行によるステージ発表が行われた。ステージには、大学生、小中学生、地元の音楽団体が出演するなど、子どもから高齢者まで多くの地域住民が集まるイルミネーションプロジェクトになっている。



やすだ食堂の様子



イルミネーション作成の様子

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【やすだ食堂】

- ・公民館だよりで周知を行い、地域住民から食材の寄付を募った。
- ・高校生と一緒に小学校へ出向き、開催の告知を行った。
- ・民生委員と連携したことで、貧困家庭の参加にも繋がった。
- ・誰でも参加しやすく、楽しそうな雰囲気を作るため、生徒と打ち合わせを行い、テーブルの並べ方やキッズスペースの設置などを工夫した。

【イルミネーションプロジェクト】

- ・ゆっくりイルミネーションを眺めたい人やお祭りに参加したい人など、様々な人が楽しめるように、1ヶ月間の展示に加え点灯イベントも開催した。また、帰省で訪れる人にも配慮し、年末年始を含む開催時期とした。
- ・保育園、小学校、企画メンバー以外の中学生、大学生、青少年育成会議、自治組織、ステージ出演者など様々な団体を巻き込んだ。



やすだ食堂チラシ

4. 取組による成果や効果

- ・やすだ食堂は、2回の開催でのべ203名の参加・参画があり、食事を通じて多世代が交流する姿がみられた。この取組が評価され、中心となった生徒が島根探究フェスタ2024に出場するなど、生徒にとっての学びも充実した。また、生徒と地域の大人が繋がり、この事業以外にも交流を持つ機会が生まれた。
- ・イルミネーションプロジェクトの点灯式には300名程度が参加し、地域への愛着やつながりを深めるきっかけとなり、「地域を元気に」の目標に向かって、保育園・学校・青少年育成会議・自治組織などが協働することができた。
- ・事業に加え、毎月発行する公民館だよりやSNSを活用した事業や講座の情報発信に力を入れたことで、多くの人に公民館について知ってもらい、公民館の利用者の増加に繋がった。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・自治会や学校の関係者等で組織される公民館運営委員会を年2回開催し、公民館の取組について、検証を行い、改善を図り、次年度の公民館事業の計画に生かしている。
- ・やすだ食堂については、参加者にアンケートを実施したほか、高校の課題探究発表会で教員等からもフィードバックをもらった。その他、生徒の様子や地域住民の様子について意見交換を行っている。
- ・イルミネーションプロジェクトについては、協力団体から意見を聞き取り、次年度に向けて改善を図っている。



課題探究発表会の様子

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

地域住民がふらりと立ち寄るような居心地の良い公民館を目指したい。また、「誰かと出会える」「何かと出会える」と住民に思ってもらえるような公民館でありたい。公民館に来ることが困難な人も多いため、公民館から地域に積極的に出かけるなどして、地域の人の要望や「やってみたい」の声にアンテナを張り、実現に向けて働きかけていきたい。



おでかけ公民館の様子

子どもも地域の主役

津山市広野公民館(岡山県)



初めての白塗りに挑戦



役者も裏方も勢揃い

公民館の沿革・年表

- ・昭和27年 勝田郡廣野公民館実験公民館の指定
- ・平成17年 広野カトレア学級・ひまわり市民学級開講
広野高齢者学級開講
- ・平成29年 広野公民館開設(現公民館)
- ・平成31年 広野子ども教室チャレンジャー開講
- ・令和3年 中学生・高校生講師の講座開講
- ・令和4年 広野子ども歌舞伎教室開講
- ・令和6年 第8回公民館職員が選ぶ講座アワード「グランプリ」を受賞

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

(写真上)

歌舞伎の舞台化粧の初体験。顔を白塗りし眉を描き、紅をひく。役により顔に塗るドーランも白ばかりではないと知る。初めは化粧品の匂いに戸惑うが、出来上がった顔を見て照れくさい。

(写真下)

舞台上で役を演じる役者も、舞台袖で拍子木や効果音を担当する裏方、黒衣も協力して舞台を創り上げていきます。(公演後、全員そろって「はい、ポーズ!」)

公民館情報		1. 公民館対象人口	1750人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	平成29年12月15日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		3. 開館日数	360日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (<input type="checkbox"/> 市長部局)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1501人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3666人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,346人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 539人 () 合計 7,052人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 5人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人) 合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (助成金)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (子どもから大人まで、どなたでも気軽に立ち寄れる公民館)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (広野保育園、広野小学校、津山東中学校、津山市連合町内会広野支部、津山市産業文化部文化課、津山市地域振興部生涯学習課、津山市教育委員会、津山市社会福祉協議会、津山市立図書館)				

津山市広野公民館

OPEN 8:30~22:00

H P <https://www3.tvt.ne.jp/~kou-ie/hirono.html>

T E L 0868-29-0380

SNS

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

広野地域には、田熊八幡神社に国の重要文化財である「回り舞台」が現存する事に見られるように、農村歌舞伎の文化が根付いていた。

しかし、平成17年5月公演以来、資金が無くなったこと、リーダー的な人材が抜けたことにより活動が停止し、さらに高齢化により経験者も少なくなり、このままでは**地域文化が消滅する危機**にあった。

2023年10月に、「田熊の舞台」が国の重要有形民俗文化財に指定されてから50年を迎える記念事業を行うにあたり、地域から「回り舞台での歌舞伎上演」ができないかと相談を受けた。そこで、既存の公民館講座で何かできないかと考えたところ「広野子ども教室チャレンジャー」という地域の**子どもたちが自主的な活動をしている講座で行う**のがいいと考え、この講座を核として、広野小学校の協力を得て、児童生徒の参加者を募り「広野子ども歌舞伎教室」の事業を実施することとなった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【広野子ども歌舞伎教室：児童生徒への伝承（伝統文化継承活動）】

地域の子どもたちが、地域芸能を学ぶことをとおして地域の歴史・文化活動を知り、**郷土愛を育む**ことで、**農村歌舞伎及び地域芸能の伝統文化を継承していく活動**を行っている。

【居場所づくり（子ども・若者の居場所づくり）】

子どもたちが主役となって、舞台上で活躍することで、成功体験だけでなく、地域貢献による達成感や自己肯定感を獲得することができた。また、公民館で練習をしたことにより、**公民館が自分たちにとって安心して過ごすことのできる「居場所」**になった。

【多様な団体・地域との連携（世代間交流活動）】

地域団体である津山市文化振興財団等だけでなく、隣町の奈義町横仙歌舞伎の方々に協力していただき、技術指導だけでなく、鬘や衣装等を借りて上演を行った。当日は、奈義町の横仙子ども歌舞伎も講演していただいた。さらに、2024年には奈義町文化センターでの横仙歌舞伎上演に「広野子ども歌舞伎」も参加し、**協力関係が継続**してきている。また、広野小学校の校長先生や教職員は稽古を見学に来る等、児童を応援・激励し見守りを行ってくれた。

この事業をとおして、**子ども歌舞伎の児童の保護者等と、地域の連合町内会を中心として協力関係が構築**することができ、上演の度に実行委員会を組織し、小道具の作成、舞台設備、装置の準備等の業務を積極的に協力してくれるようになった。参加した子どもたちは「歌舞伎」とおして、歌舞伎経験者の高齢者との交流だけではなく、**地域の大人と顔の見える関係**ができています。



子ども歌舞伎
公民館での稽古



田熊の舞台での歌舞伎公演

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

地元からの要望である「農村歌舞伎を保存したい」との相談を受け、**行政や教育委員会、学校関係者との打合せと調整を行い、協力関係を構築**した。

広野子ども歌舞伎教室の組織化を行うことにより、隣町の奈義町の横仙歌舞伎の協力を得ることができ、当事者同士の交流が活発になったことだけではなく、**行政間でも協力体制の構築**を図ることができた。

児童生徒、保護者、学校、地域の代表や住民の方々が主役になれるように配慮することで、地域住民自身が、「**自分たちの事業である**」という認識を持てるよう心がけた。公民館職員は、各種書類の作成や関係者間の調整等、黒衣に徹した。



奈義町生涯学習課の協力による広野小学校での参加者募集プレゼンテーション

4. 取組による成果や効果

子どもたちは公演の成功により、大人達から褒められ、自分も地域の役に立つという事を覚え、**達成感、自己肯定感を獲得**、醸成できた。また、**児童生徒が気軽に公民館を訪れる様**になり、空き室を利用して学習やレクリエーションを行っている。

さらに、小学校、中学校と公民館の繋がりが強く太くなり、**地域の大人たちと児童生徒との交流の場が増えた**。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

農村歌舞伎が「広野子ども歌舞伎教室」として復活し、これからも継続していくために、この事業の関係者からのアンケート調査の実施と公民館運営審議会からの助言を仰ぎながら、必要な改善を行い地域の伝統文化の継承を行っている。



実行委員会の公演準備風

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館を核とした、**学校と地域の交流と協力、共存関係を構築し、強化**していきたいと考えている。広野地区（＝広野小学校区）は、高齢化が進んだ510世帯程度の小さな村落であるが、公民館講座、文化祭の開催や、市民運動会等の地域イベントの運営に関わって行くことや学校運営に協力していくことで、学校と地域の結びつきを強め、**公民館をHubとした社会教育活動**に取り組んでいきたい。



創りたい公民館像

集う！つながる！笑顔広がるまちのまんなか

浅口郡里庄町中央公民館(岡山県)

公民館の沿革・年表

- S53 老人福祉センターとコミュニティハウスの複合施設完工
- H17～ 子育てサロン「げんキッズ」開始(老人福祉センター)
- H18～ 複合施設事務所に社会福祉協議会が併設
子育てサロン「げんキッズ」が常設となる(社協)
- H20～ 卓球サロンが始まる(社協)
- H22 子育てひろば「げんキッズ」に改称(社協)
- R2～ 「発達支援センターさとしょう」併設
- R5～ 「ラウンドフィットネス」併設
- R6～ 認知症カフェが始まる

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

本館は、老人福祉センター・社会福祉協議会・発達支援センター・ラウンドフィットネスが併設されている。職員が老人福祉センターの風呂の管理、高齢者学級のお世話、文化協会の窓口、里庄町婦人会事務局も行き、ボランティア団体や各種講座と地域や学校をつなぐことで、公民館が地域活性の場として機能できるようになった。利用者は自主的に地域に出て生きがいをもって活動し、子どもたちと高齢者が関わることでお互いに笑顔があふれ元気になった。障がいや認知症などを町全体で見守り解決しようとする土壌も育っている。



公民館で活動している手話サークル(ろう者含む)と文化協会陶芸部の交流会



里庄町で初めて行われた利用者主体の「第九の会」

公民館情報	1. 公民館対象人口	10,782人	4. 利用可能時間	9:00～17:00
	2. 建物設置年月日	昭和53.3.31	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
	3. 開館日数	332日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 7,221人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15,683人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,047人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 761人 (入浴サービス利用者)	合計	24,712人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	合計	2人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会と兼ねる)			
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ()			
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (老人福祉センター・社会福祉協議会・発達支援センター・フィットネス) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (社会福祉協議会事業に「子育てひろば」「ボランティアセンター」「卓球」あり)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他			

浅口郡里庄町中央公民館

OPEN	9:00～17:00	H P	なし
TEL	0865-64-7219	SNS	なし

1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

公民館職員の研修会で、公民館の地域での役割ややり方について学び、複合施設である自館を、逆に活かせるのではと考えていたところ、**手話講座からろう者が参加できる体験講座の要望**があった。公民館の講座生が小学校の出前授業などで教える経験や地域貢献するスキルを身に付けていたため、実施可能な団体をろう者の講座に**結び付ける**ことができた。この経験を、**発達支援センターの子どもたちの体験講座につなげ、認知症カフェの講座の企画や講師の紹介に活かして、入浴サービス・フィットネス・認知症カフェの相互利用も含め、地域住民の心と体の元気に結び付けた。**

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【生涯学習活動（伝統文化継承活動）】

公民館では生涯学習活動として「さとしょう未来塾」(小中学生)、「カレッジクラブ」(18歳以上)、「虚空蔵大学」(65歳以上)、文化協会、自主講座など月に**50の講座**が行われている。小学校の出前授業で「大原踊り」や「大原焼」など**地域の伝統文化を子どもに伝える団体**や、老人ホームや地域サロンの**慰問活動を行う団体**がある。

【認知症カフェ（世代間交流活動）】

地域が抱える認知症の問題は、認知症カフェで各団体が歌や踊りを発表したり手先を動かす物作りしたりすることで、**教える側も教えられる側もお互いに笑顔があふれ**、認知症によって起きる困り事も**地域でやさしく見守り解決しようという土壌が育っている**。老人福祉センターの入浴サービス利用者が公民館講座や認知症カフェ・フィットネスに参加したり、講座生もフィットネス・認知症カフェを利用したり、**相乗効果**がある。

【地域の拠点（世代間交流活動）】

町の計画である「子どもの元気な声が響き みんなの笑顔があふれる町」を実現すべく、複合施設の特徴を活かして、「子育てひろば」に通う**子どもたちと高齢者が触れ合ったり**、要望のあった、「ろう者が我慢せず普通に暮らせる町」をめざして**各団体と協力して体験講座を行ったり**、発達支援センターの**子どもたちの社会体験授業の協力**をしたりしている。



ろう者と文化協会ちぎり絵部員と手話通訳する手話サークル会員



「認知症カフェ」での放課後児童クラブのフラダンス発表

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

公民館は、住民のニーズに耳を傾け、活動の場を提供するとともに、適任と思われる団体と団体とを結びつけ、計画したことが実現できるよう、それぞれが不安に思うところや必要なことへの相談に乗り解決に導いた。

公民館は、あくまでも**サポートの立場**で情報収集に努め、公民館講座で身につけたスキルを講座生が地域のために活かすことのできる機会や場所を見つけ、団体同士を結び付けたり、情報提供を行ったりしている。

各団体が自分たちで考え、自立して活動できるよう手を出しすぎないことを心がけている。力を付けた各々の団体は、それぞれ活動の場を広げ、**自主的に社会貢献活動**をしている。



町外のサロンにて新大正琴の慰問演奏会

4. 取組による成果や効果

複合施設という特性を活かし、公民館が老人福祉センターの入浴サービス、フィットネス、社会福祉協議会の手話サークルなどのボランティア団体・「子育てひろば」・卓球、発達支援センター、認知症カフェと文化協会など各講座・婦人会を繋ぎ、**赤ちゃんから90代の高齢者まで自ら集い、コミュニケーションをとったり、活動できる場・情報伝達の場を整える**ことで、利用者同士のみならず、地域や町外までも**交流の輪**が広がり、**町民の笑顔やいきいきとした姿**が増えている。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者や社会教育団体、学校教育関係者等10名で構成する公民館運営審議会を年2回開催
- 公民館の現状や改題、事業実施後の参加者アンケートや活動ごとの振り返り、次回への改善点等を論議、多様な意見等を踏まえながら検証・改善を行っている。



公民館運営審議会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

「子育てひろば」や「認知症カフェ」などの運営に、夏のボランティア活動や職場体験などにおいて**中高生にもっと関わってもらうこと**によって公民館に訪れる機会をつくり、**公民館の利用が子どもから若年・中年層にも広がる**よう、情報提供や各団体のつながりをサポートする。障がいや認知症なども**地域で見守り、共に生きる、笑顔あふれる町**をめざす。



笑顔になるろう者